

## パネルディスカッションへの問題提起

宛先	問題提起	教員によるコメント
山口	<p>もう一度大学での学習について話し合ってほしい。</p> <p>その理由はまずパネルディスカッションにおいて大事なのは、先生方が私たちに討論をしてくださるのに、私たちがそっぽを向いて耳を傾けようともしないのは失礼だからである。非常に稚拙な考えだが、専門的な知識が未熟な新入生ができるだけ耳を傾けてくれるような話題を提案する際に専門的な分野の話について話し合いをされると先生方が私たちの知らないような言葉を繰り返して私たちがその話題についてついていけなくなる恐れがあるからだ。</p> <p>そこで私たちの視点からの話題も探してみると「選挙」の話があげられる。18歳から選挙権が与えられたこの現代に政治のこともやっと文句を言える年代になった。まさに政治に関してはもってこいの話題である。だが、この授業の題名は総合科学入門講座であり、専門的な話題は先ほど述べたように学生の子守歌になってしまう。</p> <p>そもそもどうして専門科目がいけないのか。例を挙げてみるとすぐわかる。「キャプテン翼」についてキャプテン翼についてあまり詳しくない者と話し合うときに知っている者が突然「シュナイダーマジで強い」などと言われても知らない者にとっては「？」となって適当に相槌を打つことしかできない。そこで知っている者が「シュナイダー」という人物について知らない人に対して自分の話が分かってもらえる分だけ知識を補う。ここでついつい熱くなって語ってしまう人もいるかもしれないが、そこに時間がかかってしまうのだ。教えてもらえないのならばその話も退屈に感じてしまう。パネルディスカッションは90分しかないのに専門用語が飛び交うたびに学生にそのことを教えるのは、時間稼ぎでしかない。</p> <p>このことから、私たちの知識体系の次元のところまで取り上げる問題のレベルを下げていくことでしか皆がパネルディスカッションに参加する授業は実現しない、と結論付ける。</p>	<p>趣旨がよく分かりませんが、要するに、「専門的な話をするな」ということでしょうか？これまでの授業でも「専門的」な話題は避け、なるべくだれでも参加できる話題を選んできました。具体的に、どの話題についていけなかったのか、なぜついていけなかったのかなど、説明してください。授業ではキャプテン翼については扱っていないので、その例を挙げられても、どういうことなのか分かりません。また、大学は専門的な学問を学ぶところですから、しっかり学ぶようにしてください。</p>
山口・饗場	<p>ウィキペディアにはなぜ嘘の情報が含まれているのか、という話題をパネルディスカッションで行っていただきたい。</p> <p>総合科学入門講座の前半では山口先生によるレポートの書き方を学んだ。そこではウィキペディアは、信頼性が低いため、引用するべきではないことが分かった。ウィキペディアはインターネットで物事を調べる際に利用するサイトの一つであり、我々の生活に浸透している。それにもかかわらず、なぜウィキペディアには嘘の情報がたくさん含まれているのであろうか。その理由の一つとして、誰でも書き込めるという点があげられる。嘘の情報を書き込み、それに騙される人を見て嘲笑いたいののであろうか。それとも、ただ単純に真偽を確かめずに手に入れた情報を書き込みたいから書き込んでいるのであろうか。どちらにせよ、嘘の情報を流すことはしてはならない。ウィキペディアを開設した者が嘘の情報を削除したりすることはないのであろうか。</p> <p>今回の授業では、ものごとは、現実を正確に把握して原因を正確に理解したうえで対応することが必要であると学んだ。総合科学入門講座において、レポートでウィキペディアを引用するなど伝えるということは、どれだけダメだと言っても引用する人がいるということだ。それは、正確にその理由を把握していないため、対応ができないからではないか。そのため、ウィキペディアに嘘の情報が含まれる原因を理解すれば、対応してウィキペディアを引用する人は減少する。</p> <p>この理由から、6月29日「総合科学入門講座」最終回で、ウィキペディア</p>	<p>意図的にウソを書こうと思ってウィキペディアの記事を書いている人は、それほど多くないでしょう。ただ、しっかり出典を調べないで記憶に頼って書いたりするので、結果として信頼性の低い内容になってしまいうということが問題です。授業では、そうした情報の審議を見分ける一つのコツとして、出典が明記されているかどうかをチェックするように言いました。また、出典が書かれていた場合には、出典の方を読んでみるようにとも言いました。</p>

	<p>にはなぜ嘘の情報が含まれているのか、という話題をパネルディスカッションを行っていただきたい。</p>	
<p>山口先生</p>	<p>2018年6月13日の日本経済新聞によると、2020年4月から政府の「人づくり革命」により、大学や専門学校などの高等教育は住民税非課税世帯の授業料や生活費を国費で支援する事が決まっている。(日本経済新聞、「人づくり革命、教育の無償化先行 19年10月から」、<a href="https://www.nikkei.com/article/DGXMZO31713410T10C18A6EE8000/">https://www.nikkei.com/article/DGXMZO31713410T10C18A6EE8000/</a>、2018/6/24 アクセス)しかし、ここで2つの問題を提起したい。それは、この政策が適用される条件に成績について考慮しない点と世帯の年収によって補助の金額が異なるという点である。</p> <p>まず、成績が関係しない事によって、これまでより高等教育を受けやすくなる人が増加する利点はある。しかし、従来の奨学金の多くは成績も考慮されてきた為、授業料免除を受けた者との間に不公平感が生まれてしまうのではないだろうか。</p> <p>また、世帯の年収によって補助の金額が異なる事で、不公平感が生まれてしまうのではないだろうか。この政策で「夫婦2人でそのうち1人が大学生の世帯の場合、年収300万円未満の世帯では住民税非課税世帯の3分の2の額、年収300万円から年収380万円未満の世帯では3分の1の額を支援する」と述べられている。(日本経済新聞、「人づくり革命、教育の無償化先行 19年10月から」、<a href="https://www.nikkei.com/article/DGXMZO31713410T10C18A6EE8000/">https://www.nikkei.com/article/DGXMZO31713410T10C18A6EE8000/</a>、2018/6/24 アクセス)年収による線引きは本来困難ではないだろうか。</p>	<p>「哲学思想の基礎」の方の授業で言いましたが、手当の給付に所得制限を付けることは、一見すると、あるいは財政難の状況下で短期的には、合理的に思えるかもしれませんが、中高所得層は税金を負担するばかりで給付が受けられず、低所得層は税金をあまり負担せずに給付が受けられるので、中高所得層と低所得層の間に分断が生じ、中高所得層の間に税金を忌避する感情(租税抵抗)が芽生えますので、中長期的には不合理です。</p>
<p>山口</p>	<p>私が取り上げたい問題は、うつ病などの精神障害で働けなくなる人の増加です。この問題を取り上げたい根拠は二つあります。</p> <p>一つ目は、少子化の影響で生産年齢人口が減少している現代日本で、働けなくなる人が増えるのは避けなければならないからです。こういった働けなくなる理由の一番は、職場でのストレスです。例えば、上司からのプレッシャー、セクハラやパワハラ等があげられます。ここに男女の違いは関係ありません。海外からみてもよく働く日本人は、仕事場でのストレスが一番の問題です。後回しされがちなうつ病について、さらなる議論が必要です。</p> <p>二つめは、いつ自分に起こるか分からないからです。私の身近な人にも、うつになり仕事をやめたり、入院することになって家族バラバラで暮らしていたり、今でも薬を飲んで治療している方々がたくさんいます。皆、元々真面目で明るい人たちです。うつ病は本当に誰に起きてもおかしくないのです。いざそういう場面になったとき、一番必要なのは理解することです。そして、一番してはいけないのが、受け入れないことです。遠い話と思っている、家族がこの問題に陥ったとき、同じことは決して言えません。</p> <p>したがって、私は精神障害についての議論を求めます。</p>	<p>残念ながら、今回は臨床心理学の専門家が授業に参加していませんので、うつ病についての討議はできません。心理学関係の授業で(たとえば後期の「課題発見ゼミ」の心理学系の授業で)学んでください。</p>
<p>山口</p>	<p>日頃から常に言及している「思うはやめましょう」という内容について、同時に「『～すべきである』という表現も、結論を出していないために使っはいけない」と言っていたが、ルソーの思想を解説していく際に「ルソーは『憲法は外国人が作る『べきである』と言っています」と明言していた。では何故ルソーが良くて自分達は駄目なのか、ルソー最良では無いのかという問題を提起したい。</p> <p>扱うことが必要な理由は、今後自分達がレポートや論文を書いていく中で、例えば社会に対する問題の解決策として『すべきである』と使いたい場合にも『すべきはやめましょう』と却下されてはたまったものでは無いからだ。ルソーと自分達の『べき』の間には何かしらの条件や差異があり、『べき』を使っても良い場合とそうでない場合があるのだ、というのが自分の見解であり、最初に述べた一文がその根拠である。「『べき』はやめましょう」と言いながら「ルソーは『べき』と言っています」と、明らかな矛盾を平</p>	<p>「～すべきだ」をやめようとは言っていない。「～ではないか」などの憶測をやめましょう、と言いました。</p>

	然と述べるということは、自分達とルソーの使う『すべき』に何らかの差異があることは明白であるからだ。ではその差異は何なのか、ということについて、議論していただきたい。	
山口	大学で学んでいく上で身に付けておくべき力である、論文やレポートを正しく書く力についてこれまで学んできた。高校までの感想文とは異なり、論文やレポートは、自分の思ったことや感じたことを書くのではなく、自分が述べることを「正しいこと」として断言し、その際には、読み手が納得するような根拠を添えておかなければならない。根拠ない意見は説得力のあるものとは言えない。そこで、意見に対する根拠を述べる際に重要なのが、信用できる情報源であるということ。授業で、主にネットから調べた時に、どのようなものが信用できる情報であるかということ学んだが、実際にレポートを書くとなると、ネットからの情報だけでは足りない。それゆえ、本から情報を得たいが、図書館で検索をかけると膨大な量の本がでてくる。そこで、具体的にどのような本を優先して参考にすべきなのか、また、自分の選んだ本をじっくり読むべきか、たくさん本を読むべきかどうかを詳しく知りたい。	後期「課題発見ゼミ」で具体的に学んでください。
山口	初めのほうの授業で、大学での学びは学問的な興味関心に即したものである、という話があったが、学問的な興味関心と個人的な興味関心の違いは何なのかをディスカッションしていただきたい。学問的な興味関心も、興味が起こる一番はじめは個人的なものではないかと思ったからだ。	ディスカッションするまでもなく、最初の三回の授業で繰り返し説明しました。しっかり復習しておいてください。
山口、饗場	私は民主主義について議論してほしい。饗場先生の授業や、山口先生の哲学の授業を含め、民主主義についてたくさん学んだ。意思決定は多数決であるが、多数派の意思が正しいとは限らないこと。また、徹底した政策を行うことは難しいが、政治の責任が民意にあるので国民にとって一番理想的である。そのようなことを私は学んできた。しかし、国民に決定権があるのに、多くの国民はその自覚がない。政治状況が悪くても自分のせいだと思わないだろう。そうすると、具体的に政治リテラシーを持つこととはどのようなことなのだろうか。国民にとって薄れてしまった政治意識を取り戻すためには?その具体的な方法についての議論を見てみたい。	具体的に政治リテラシーを持つための第一歩は、新聞を毎日きちんと読むことでしょう。また、授業で紹介された本を読むなどして、多面的な知識を身につけることです。
山口・矢部	キャリアプラン入門は本当に意味があるのか。ひとつ、今社会人としての振る舞いを聞いたとして、半年後に覚えている者が何人いるだろうか。学生なのだからかけるだけの恥をかいて成長していくのでいいではないか。就活前には自発的にマナーなど学ぶのだからあえて今やる意味がわからない。ふたつ、進路選択のきっかけを与えられているのか。選択肢を知ることは必要である。しかし、授業内で十分に紹介しているかは疑問である。結局のところ、必要性がわからない。キャリアプラン入門はどのように役に立っているのか。全く実感がない。私ならばキャリアプラン入門は廃止する。	「大学設置基準」により、キャリア教育を行うことが大学に義務付けられていますので、やめることはできません。また、職業について理解しておくことは、やはり必要でしょう。全員が必修で受ける以上は、絶対に必要な知識や情報を与えなくてはなりません。それは、「頑張れば夢がかなう」とか「企業に選ばれる人材になるためにはどうすればよいか」といったことではなく、労働法の基本や、人間にとって働くことの根本的な意味などです。そういうことをちゃんと伝えられる授業に改善していきたいと思っています(→現時点では「予定」とまでは言えず、私の「思い」です)。(山口)  大学の必修授業は廃止できないので、中味をアップデートするしかありません。多分、キャリアプラン入門の単位をとらないと卒業できないはず。(矢部)

<p>荒武先生</p>	<p>今までの授業は、私のこれから大学生活を過ごしていく上で為になる、授業内容のものが多かった。特に衝撃を受けた授業は、荒武先生の授業だ。先生の声量と勢いのある話し方もあるだろうが、時間があっという間に感じられるほど話に夢中になった。日本と中国が尖閣諸島領有の問題で互いに言い合っているのは知っていたが、いつから言い合いを始めたのかとか、どのような根拠があって主張しているのかとか考えもせずに他人ごとのように聞き流していたので、普段よくニュースとかで話題になっているが意外と詳細は知らないという問題を調べるのは面白い。なぜなら、人々はニュースの見出しなどを見ているので、完全に無知というわけではないはずだから、完全に無知の状態から授業を聞くよりも頭の中に入れてきやすいからだ。</p> <p>そして、高校のように歴史の授業をするだけでなく、レポートを書くときの引用は出所表示を必ず示すことや、情報は複数の資料を参考にすることでその情報は信頼の高い情報になること。また、日本側にも中国側にも偏らない、中立の立場をとり、客観的な意見を述べていた。これらのことは以前の山口先生の授業でも言われていたことで、プレゼンをより面白くし、内容の濃いものにするので重要である。</p> <p>この授業についての問題提起として、荒武先生はプレゼンをするための引用の資料をどこで調べたのだろうか。数ある情報の中でなぜこの情報を選んだのか。先生の資料にあった、中国の新聞記事の1、2行しか記載されていない事柄までもプレゼンに必要な有力な資料にしていたが、その資料はどこから見つけてきたのかが気になった。</p>	<p>中国・日本を問わず、信頼できる研究とは史料をちゃんと提示し、そこへのアクセス方法を明記しています。荒武はそれらの研究を読み、「本当かな？」というスタンスで原史料に当たるといふ作業を行いました。実は尖閣諸島の問題を論ずる上で、授業で引用した史料は珍しいもの、新発見のものではありません。歴史学の営為とは、そこにある史料を読み込み、あでもない、こうでもないという議論を重ねることにあります。</p>
<p>荒武先生</p>	<p>私は、荒武先生の授業に関連して、北方領土問題についてのパネルディスカッションを聞きたい。</p> <p>北方領土とは、北海道より北東側に位置する歯舞群島、色丹島、国後島、択捉島の日本人が住んでいた4つの島の総称である。そしてその北方領土問題とは、北方領土が第二次世界大戦後、ソ連軍に占拠されているという問題である。(内閣府「北方領土問題とは 北方対策本部-内閣府」, <a href="http://www8.cao.go.jp/hoppo/mondai/01.html">www8.cao.go.jp/hoppo/mondai/01.html</a>, 2018/6/26 アクセス)。</p> <p>今まで、中学校と高校の歴史の授業で北方領土問題について学ぶことがあった。100年以上前から、ソ連と北方領土をめぐる問題が続いており、なぜ問題が解決しないのかと疑問であった。現在、北方領土はロシアの領土となっているが、それは正しい決断であるのか詳しいことは今まで知らずにいた。私たちは、日本とロシアの北方領土問題について歴史学の観点から詳しく学び、正しい主張や対処方法を考える必要がある。</p> <p>荒武先生の「日中間の領土問題」の授業で、相手の主張に耳を傾けて批判を加えることが大切とあった。このことから、同じ領土問題である北方領土について私たちは、相手側の主張をよく学んだうえで、どのような批判の点が挙げることができるのか、先生方はどのような意見をもっているのかを知りたい。また、統計データや新聞記事のデータベースの情報を知り、「あえての観点」から出てくる反対意見にどのようなものがあるのかを知りたい。</p>	<p>北方領土について議論しようとするならば史料を提示しなければならないのでここではできません。ただ高校の地理歴史の知識でも十分に接近できるテーマだと思います。</p> <p>何故、四島なのでしょう？ 何故、これらが固有の領土と私たちは認識しているのでしょうか？</p> <p>そもそも私たちとロシアは1875年の樺太千島交換条約で領土を平和的に確定しました。千島列島の占守島まで日本の領土となり、樺太はロシア領となりました。その後日露戦争で南樺太は日本領となりました。</p> <p>第二次大戦後、我々は戦争によって獲得した領土(南樺太)及び千島を放棄することとなりますが、平和的に獲得された千島列島については議論が続きます。歯舞と色丹は北海道の付属の島と見なされていました。当然、放棄した海外領土には含まれないという認識です。そして「南千島は千島にあらず」、北方四島が固有の領土だ、という理屈が出現します。1955年に日本政府は北千島と樺太の放棄を方針として決定しました。</p> <p>実は北方領土というのは最初は4島ではなかったのですね。教科書を読むだけでもこれだけの問題点が浮かび上がってきます。(荒武)</p> <p>概要を知るには、白井聡『永続敗戦論』講談社を読むとよいでしょう(山口)。</p>

<p>荒武</p>	<p>次回の総合科学入門講座のパネルディスカッションで扱う、話題についての問題提起は、「公文書の管理・公文書の改竄」についてである。</p> <p>以前の講義で何度か「研究の資料として、今行われている政治の質を問うものとして、後世に残すべき資料としても公文書はとても重要である」と言っていた。しかし、その公文書が公開されなかったり、改竄されたり、残されていなかったり、内容が破棄されてしまったり、という問題が発生している。</p> <p>この問題が起こっている原因は、責任を逃れるために自分より上の役所・役職へ次々と、物事を行う確認をとっていき形式が一つの要因である。基本的には、人がこの文書の書き換え管理を行っているが、憲法の存在でこういった文書が公開されなくなる可能性も大いにある。</p> <p>公文書は研究する際にも、後世が今の、または今よりもっと前の世の情勢・政治を判断・評価するのに欠かせないものである。その公文書が改竄、果ては破棄されるという事態は、物事を学ぶ上において、また、その内容を正しく読んで政治を判断しなければならない一市民としても看過できない問題だ。この問題は、一度腰を据えて講義や、そういった授業がなければ自分でその問題を調べて考え、これからどうやってそれを解決していくのか、ということを考えなくてはならないものである。</p> <p>上で述べてきたことが、ディスカッションでこの問題を取り上げるべき意義・理由である。</p>	<p>これは饗場先生の領域でもありますが、歴史学としても重要な問題です。例えば「南京事件」などの日本軍のスクンダル、「特別高等警察」のような人権侵害に関わる機関の資料は、1945年8月に意図的に破棄されました。いわゆる「訴追のおそれがある為」とも言えます。(私事ながら、私の父も公文書の焼却に動員されました。)</p> <p>ただし君が言うような「上の役職へ云々」は主要な原因ではありません。軍(自衛隊)を含めすべての機関は規定に基づき行動することが根幹です。ましてや現行の憲法は行政各レベルの暴走を容認するものではありませんし、国民の知る権利を侵害することはありません。改定されたら分かりませんが。</p> <p>現在の問題はこの「規定に基づき行動する」という基本、そして判断の基準と経緯をきちんと記録する根幹が揺らいでいることによります。</p>
<p>荒武</p>	<p>私は、次回のパネルディスカッションで北朝鮮を中心とした問題について議論してもらいたいと考えている。荒武先生の講義で日本と中国の領土問題についての話があった。そこで、現在の日本の状況とこれからどのように対話していくべきであるのか考えさせられた。その中で私は、現在の日本の最重要問題となっている北朝鮮について先生方の考えを聞いてみたいと感じた。この前、アメリカと北朝鮮の対談が行われた。そこでトランプ大統領は、すぐにでも核開発をやめるように北朝鮮と交渉したと言っていたが、北朝鮮側は、少しずつ進めていくと発表した。このことから、アメリカと北朝鮮の間で食い違いがあることが見て分かる。そのような状況である中で、アメリカが日本のために拉致問題について交渉するという余裕があるはずがない。だから、日本がこれから自分たちで北朝鮮と交渉、対話していかなければならない。これからの日本の行く末と北朝鮮との関係がどのように変化していくのか興味を持ったので、是非とも先生方の考えを聞いてみたい。</p>	<p>これは饗場先生の領域ですね。北朝鮮の問題は重要ではありますが、歴史学として提示する材料がない以上、私にはコメントできません。申し訳ない。</p>
<p>荒武</p>	<p>私はパネルディスカッションでは、国際問題、具体的には領土問題を取り上げて欲しい。</p> <p>これまでの講義で、荒武先生の授業で領土問題を考えるというのがあった。この授業では、日本と中国の両者の意見を、感情は抜きにして信頼のおける資料のもと客観的に見ていき領土問題のどのような点に問題があるのかを判断した。現在日本はこの尖閣諸島だけではなく、北方領土や竹島といった国際的な領土問題を抱えている。これらの問題は友好的、建設的な外交の妨げとなっている。現に日本が国有化した2012年には中国との国交関係の悪化で、経済関係も両者とも悪化している。また両者の両者に対する国民感情も悪化している。(2012年、山東諸島では反日デモが勃発)グローバル化に伴い中国など周りの貿易国と繋がりが深まっている中、早々に解決すべき問題であり、そのためにはまず現状を知ることが第1でそこから解決策や和解策を提示していく必要があるため、この議題を提案する。</p>	<p>まず山東諸島ではなく山東半島です。</p> <p>竹島・北方領土の領有については別のコメントで見解を述べますのでご覧ください。</p>

荒武	<p>北方領土、竹島などの領土問題を扱ってほしい。</p> <p>講義で中国との領土問題である、尖閣諸島について歴史学的手法を用いて両者の主張を検証したが、日本には尖閣諸島以外にも領土問題を抱えている。</p> <p>ロシアとの間にある北方領土、韓国との間にある竹島の問題である。これらの領土問題はニュースで多く取り沙汰されているが、この問題が起きた経緯を私たちはよく知らない。</p> <p>しかし、自分の住んでいる国が領土問題を抱えているということは決して他人事にはしてはいけない問題である。</p> <p>講義で、史料を用いて尖閣諸島の問題について検証した際、ニュースで聞く日本の主張にも問題があり、中国の主張にも問題があるということを知った。</p> <p>とするならば、他の領土問題にも主張に問題がある可能性がある。</p> <p>ニュースの内容だけではなく、根拠について知ることにはこの重要な問題を知ることにも繋がる。よってこの問題を扱うことが必要である。</p>	<p>北方領土については別のコメントで述べております。竹島については1905年に領有されますが、尖閣諸島と同様、「ホントは既に他国のものかもしれない」という疑念をはらんだものでした。日本の領有とほぼ同時期に朝鮮側でも領有に向けた意識の高まりがあったことが確認されています。つまり日本による領有は、タッチの差であった可能性があります。それをどのように解釈するか。残念ながらここで皆さんに史料を提示できないので、これ以上の議論は出来ません。池内敏『竹島：もうひとつの日韓関係史』中公新書、2016年が歴史学として優れた入門書です。ご参照ください。</p>
荒武	<p>荒武先生の講義では、尖閣諸島(釣魚島)について、中立な立場から日中両国の主張や、根拠となる歴史的資料を示されていたが、結局曖昧なまま終わってしまった。この問題から、今後あらゆる課題が発現しそうなので、できるだけ平和的な解決策が必要とおもわれる。</p> <p>私なりの解決策は、尖閣諸島を一時的に、中立的で利潤を追求しない第三者の管理下に置いてもらうことである。例えば、国際的な組織や、永世中立国などである。こうすることによって、両国とも危険な行動をとることができかね、話し合い以外の解決方法がほぼ絶たれるのではないだろうか。そもそも、両国がこのような提案に頷くか・話あったところで主張はかわらないのではないかという疑念もあるが、そういった場合は、元の状態から手を加えないという約束で、永久に第三者の管理下に置いてもいいのではないだろうか。荒武先生は、この問題に何か解決策はあると思いますか。</p>	<p>君の質問は具体的なので、こちらも私見を述べます。領有権の帰属と経済的な利用というのは分けて考えるといいでしょう。本来はこちらの方向でまとまりかけた(領有権は棚上げ、共同開発)のに、両国においてナショナリズム、反日・反中運動が盛り上がりってしまった為、妥協が難しくなりました。事がここまで紛糾した以上、いったん両者はこの問題を忘れる必要があります。一定の冷却期間を経た後に、冷静に議論すればよいと、私は考えます。</p>
荒武	<p>来たる2020東京オリンピックで、日本と中国の関係はスポーツを通してどのように変わっていくのか。もちろん中国だけではなく世界中が注目するイベントなので、参加諸国との関係もきになるがやはり身近な国である中国と我が国が政治ではなくスポーツで繋がることでどのような変化が生まれるのかが気になる。</p>	<p>歴史学は過去に基づき未来を見通すことしか出来ません。君の関心に則せば毛里和子『日中漂流：グローバル・パワーはどこに向かうか』岩波新書、2017年などが回答を導き出してくれるはずで。</p>
荒武	<p>隣の国である中国との領土問題は、この先も続いていくと思うので知っておくべきだと思うから。尖閣諸島に関して色々な意見があるが、私は、日本のものだと思う。</p>	<p>他のところでコメントしていますのでご覧ください。ただし漠然と「日本のもの、中国のもの」と“思う”では水掛け論になるので、きちんとした理論武装が必要です。</p>

<p>荒武、饗場</p>	<p>この先の東アジア情勢について この先数年間の日本、ひいては世界情勢に大きく影響してくるであろう問題であり、私たち日本人にとっても生命に関わる重要な問題であるから。友好姿勢を示しているがその真意は不確かな北朝鮮、国家主席の任期を延長し、確実に国力、及び軍事力を増強している中国と、こちらも大統領に再選し独裁体制を強め、東アジアに対して影響力を伸ばそうとしているロシア、そして世界最大の軍事力を保有するアメリカ。世界中にかつての戦争の残滓が残り、燻り、それがまた戦後の世界に波紋を呼んでいる。東アジアにおいてもその残滓が、例えば朝鮮戦争が未だ完全な和平状態でないことや第二次大戦における戦勝国が近接して互いのパワーバランスを見計らっていることから伺える。これまでの歴史から見ても、強力な国家同士は最終的にその覇を競い合い、一方の国が破れ、またもう一方の国が新時代の覇者となってきた。決してこの先戦争状態に突入する可能性が No とは言えないが、しかし多くの知識人が頭を悩ませるようほど複雑になりつつある東アジア情勢には、日本人として日和見のスタンスでいるべきでは決してない。</p> <p>この先日本はどうなるのか、どうするべきなのか、先生方がこの問題について様々な資料から、また外交、経済、歴史など様々な見地から議論すれば恐らく一色ではない答えが生まれるだろうと思ひ提言する。</p>	<p>これは饗場先生の領域ですね。材料がない以上、申し訳ないが私にはコメントできません。</p>
<p>荒武・矢部</p>	<p>現場に出て考えるフィールドワークが適した学問と頭の中で考えたり文献を読むべき学問はそれぞれどのようなものか。</p> <p>このテーマを選んだ理由は、せっかく複数の先生方がパネルディスカッションをしてくださるなら先生方によって違うアプローチのテーマを選びたかったから。また私がこれまでの総科の授業を受けて疑問であった事だから。</p> <p>自分なりの答えとしてはフィールドワークに出るべきなのは社会学などの現在も観察できるもの。頭の中で考えたり文献を読むべき学問は、哲学などの社会に出ても多くの人に馴染みがなく過去の知恵に遡るもの。他には計算により答えを導こうとする理系の学問もフィールドワークは意味がない。また私は社会学の中の文化人類学の授業をとっているがその授業でこの学問は見方を変えれば範囲も変わると学んだ。よって大まかにはどちらがいいかという答えがあってもきっちりと決まっている訳ではない、というのもこのテーマへの答え。</p>	<p>これは矢部先生へのコメントですね。</p>

<p>依岡</p>	<p>「読書に親しんでいない人たちに読書をしてもらうにはどうするべきか」というのを問題としてあげる。</p> <p>「読書は大事なので読んでほしい」という授業は今までに何度かあった。しかし、そのたびに勧められるのは難しい本を読むことなので、このような紹介の仕方だけでは読書が苦手な人に対しては逆効果だといつも感じていたからだ。学びのある読書を求められるのはこれから必要になるスキルであるので当たり前だが、読書に親しんでいない人にはいきなりハードルが高いのではないか。</p> <p>自分なりの解答としては、本を読むきっかけとなるビブリオバトルを、絵本だけのテーマで行うことである。絵本は、子供の頃に好きだったものをもう一度読み直すとわかってくる部分が出てきたり、その話の裏の意味を気づいたりするいい題材であるからだ。そして何度も読み返す大切さも同時に学べる。何よりハードルが低い分読書に対する抵抗感がなく楽しく本を読める。そして最終的には絵本から徐々に小説へ、レポートを書くために必要となる本へと段階を上げていく。</p> <p>絵本を読んで想像力を養ったり、読解力を身に付けたりするのだろうが、アニメだけで済まされ、あまり絵本に触れてない人もいる。そういう文字に対する土台がない人たちが、受験や部活でどんどん使える時間が減っていきここまで来て、勧められて本を読みだすようには思わない。しかも若者はどんどん読書離れをしているのだ。まずは本を読む楽しさを思い出し文字に慣れることが大切になってくる。だからこの段階をあげていく読書方法を紹介するのは有効である。</p>	
<p>依岡</p>	<p>どのような問題なのか</p> <p>大学生が読書の習慣をつけるにはなぜその問題を扱うことが必要なのか</p> <p>依岡先生の授業で大学生にとって読書は、クリティカルリーディングや、知識を広げて思考力、想像力、批判力を養うために必要不可欠だと学んだ。ビブリオバトルを通して、アウトプットする経験もしたが、その後読書が習慣化されたとは言い難い。自分も含め、総合科学部の友達も、レポートを書く際に情報収集として本を利用することはあっても、読書を続けている人は少ない。読書をするときは、レポートを書くのに必要だからという場合が多い。1回の授業だけでは読書の必要性は理解しても、実際に読書を習慣化するという行動に移すことは難しいのか。</p> <p>自分なりの見解</p> <p>いきなり読書の習慣化は難しい。そもそも大学に入学する前から読書の習慣があまりなかった人が多いのではないかと考える。私が通っていた高校では補習の期間だけだが、朝読という行事があり、授業前に読書をする時間が設けられていた。この行事が終わった後でもしばらくは読書の習慣がついた。大学生が読書の習慣をつける方法として、大学である一定期間だけ、授業前や授業中を通して学生が集団で読書をする時間も設けることが考えられる。</p> <p>その根拠</p> <p>何かを行動に移す際、1人でするよりも複数の人と一緒にするほうが取り組みやすい。大学側が読書の時間を設けることは、読書をするよう学生に強制するよう見える。しかしながら、ただ読書のすすめを呼びかけるよりは、きっかけとしての強制があるほうが行動に移しやすい。</p>	



依岡	<p>これまでの講義を受け考えたことは、現代の若者がより本を読む習慣をつけるためには、どのようにすればよいか考えるべきだということである。2015年の、大学生の一日当たりの読書時間は、0分が4割を超えるという結果であった。また、1日の読書時間は平均28.8分で2014年よりも2.9分短縮している。読書した人の平均も52.9分で、前年から1.5分短縮となっている。なぜ、このように読書をする若者が減少しているのか。その原因は、スマートフォンなどの最新携帯電話の普及であると推測される。1日のスマートフォン利用時間の平均は177.3分で、男子174.4分・女子180.8分であった。スマホを持たない、または利用しないという、利用時間「0分」の割合は0.8%とほぼ全員が利用している(『第51回学生生活実態調査の概要報告』、2015年、2018年6月23日閲覧)。このように、一日におよそ3時間をスマートフォンの使用に使っている大学生は多いのが現状である。大学生が毎日の授業のほかに、部活・サークル、アルバイトなどを一日の大半に当てているとし、残りの少ない時間をスマートフォンの使用に当てれば、自然と読書をする時間は減る。これが読書をする若者の減少の原因の一つである。</p> <p>以上から、読書をする若者の減少を改善するためにはどのような方法をとったらよいか、パネルディスカッションで取り上げる話題として、問題提起したい。</p>	
依岡	<p>1 どのような問題か なぜ若者の読書離れは進行しているのか。</p> <p>2 なぜその問題を扱うことが必要なのか 現在読書をよくしているという若者は少なく、全くしていないという若者が増加傾向にあるからである。読書をしなくなるということは、文章を読み解く理解能力や人物のq情を予想したりする能力が低下することと同じだと思う。</p> <p>3 自分なりの見解 若者に限らず、小さい子供も本を読む機会が減少しており、ますます読書離れが進行している。</p> <p>4 その根拠 昔は子供が遊ぶとなると、外遊びをしたり、室内だと読書をしたり、テレビを見たりするなどということに留まっていたが社会の情報化に伴い、電子機器が発達し、スマートフォンやパソコの登場でスマホゲームやインターネットサーフィンといったものに現在はなっている。その結果、本を手にとることすら少なくなり、読書の楽しさを知らない人が増えてきている。</p>	
依岡	<p>依岡教授の回で、若者の読書離れが指摘された。若者だけに限らないが、読書離れという現象が、ネットでの嘘、出鱈目、水掛け論の議論の発生に繋がっているのではなかろうか。勿論、本や文献の中には信頼性の低い情報を載せているものもある。しかし、出版社の精査を受けているため、ネットの情報よりは信頼できる。読書頻度が上がれば、明確な意図を含んだ嘘などは防ぐことはできないが、そういった情報に騙されることはなくなる。</p> <p>以上の理由で、読書離れ(文献・資料含む)を解消するためにはどのような方法があるか議論してほしい。私はこの問題に対してビブリオバトルなどの参加型イベントが有効であるとする。この様なイベントでは読書好きだけでなく、喋ることが好きな人、イベント好きの人にも集まることが期待できる。そのうえで、読書好き以外の人にも読書の切っ掛けを与えることができる。</p>	
依岡	<p>最近の若者の読書離れを1人の若者として感じている。そこで、改めて大学生としての読者をするために読む意義や理由を再認識する必要がある。「考える」ための読書をするために「クリティカルリーディング」が不可欠であり、テキストの内容や形式の表現について正確性や倫理性を客観的に理解して評価していく読み方が求められている。また、本を読むことにより、自分の知識や見聞を深めながら、思考力と想像力、そして批判力を培い、自らの教養を高めようとする姿勢が大事である。その工夫として、速読や通読、精読がある。小説やエッセイ、論説文などによって使い分け、自分の中でとどめるのではなく、人に話したりなどのアウトプットをする必要がある。そのきっかけとしてビブリオバトルがある。もっとこれを普及させて、大学生の今だからこそ自分を磨く手段の一つとして読書の本当の意義を図るべきである。</p>	

依岡	<p>大学生の1日あたりの読書時間0分が4割越えであるため、読書のきっかけとして、ビブリオバトルを講義で実践したが、ビブリオバトルは本当に読書をはじめのきっかけになるのだろうかという問題。講義でのビブリオバトルは、簡単に前で手本を見せてもらって、すぐに実際に自分たちがやってみて、それで終了だったので、やりっぱなしで意味がわからないままだったから。</p> <p>私は、ビブリオバトルをしてみても、自身が紹介する本についてはよく理解できたが、だからといって読書をはじめのきっかけとはならなかった。また、1週間しかビブリオバトルのための期間がなくて、あまり準備ができていない学生もいたのもっと準備期間を延ばすべきである。</p>	
依岡	<p>大学生として読むべき本について</p> <p>本を読み、深く理解することで知識の体系として役立つが、具体的にどのような本を読むべきか触れられてはいなかった。論述や小説、エッセイなど様々な種類の本があるが、それぞれ自分たちにどのような影響を与えるのか議論することで、読書への興味関心が刺激される。ビブリオバトルを通じて友達が普段本をどのくらい読んでいるのか、どのようなジャンルの本が好きなのか知ることができたのはよかったが、授業の時間ギリギリになってしまい、ビブリオバトルから得た興味関心を広げることができなかった。より読書について理解を深めるため、もう一度議論したい。</p>	
依岡	<p>読書のスズメのような授業をやっても、日常本を読んでいない人に本を読ませるようにする、本を読むきっかけとするには難しい。しかし、私たちにとって、本を読むことは勉強することと同じくらい求められていることだ。新聞も読むべきことなのだが、私自身、なかなか機会が得られない。どうやったら本当に若者に本や新聞に興味を持ってもらえるかは深く考えなければならない問題である。本を読むことで、書く力、話す力が身につく、これから社会人として仕事をこなす上でもその経験が大いに役立つからだ。</p>	
依岡先生	<p>なぜ漫画を読むことは読書に入らないと一般視されているのか、という議題を提起します。なぜなのかというと、漫画をきっかけとしさらに理解を深めようと文献を読み始めることも多くあるから。近畿大学では文献の隣に漫画を置き、理解を深みに自然と入るようにする試みもしているようです。しかし、現代では、漫画ばかり読んでいると馬鹿になると私が父親に言われたように、このような言葉が浸透しています。この現状を打破できればもっと読書人口が増えるのであります。</p>	
依岡	<p>若者の本離れが進んでいる。最近本を読んだ人の大半は総合科学入門講座の読書の課題のためだという。つまり、自分から読書をする人が減っているということだ。読書をすることで教養を身につける必要がある。若者が読書を習慣づけるにはどうすればよいだろうか。</p>	
依岡	<p>読書のスズメの講義ことの中で学生同士でオススメの本などを紹介し合い、沢山の情報を交換することが出来ました。先生方のオススメの本も教えて欲しいです!</p>	

<p>矢部</p>	<p>私が考えた、パネルディスカッションで取り上げる話題は、「シャッター街を活性化させるにはどうすれば良いか」だ。</p> <p>なぜ、このテーマにしたのかというと、「シャッター街」の問題は、現に今、徳島が直面している問題のひとつだからである。また、この問題は、別に徳島に限ったものではなく、徳島以外の「地方」でも起こっている問題であるため、解決策を考える必要があるのだ。</p> <p>今回は、徳島の「シャッター街」について考える。徳島の東新町商店街や西新町商店街を歩いたとき、「どこもシャッターが下ろされていて、開いている店が少ない……」と私は思った。昔は、栄えていた商店街だったのだろう。しかし、今では、買い物に行くなら自動車ですぐ遠くまで行くことができる。そして、大きなショッピングモールが近くにできたため、誰もが商店街に行かず、一か所に何でも揃っているショッピングモールを利用するようになった。これらが原因で、「シャッター街」は出来上がってしまったのだ。さらに、もう一つ、原因を付け加えるなら、「商店街で売られているものが若者の好みではない」ということだろう。若者のニーズに合わせない限り、商店街の復活は難しい。徳島の「シャッター街」を活性化させるためには、ショッピングモールには売られていない、若者が好きそうなものを売る店を商店街に入れる必要がある。</p> <p>たとえば、徳島では「マチアソビ」というイベントが開催される。マンガやアニメなどを好む人々が、県内・県外から多く集まってくるイベントだ。東新町を中心に賑わうこのイベント、しかし、多くの人たちが集まっても開いていない商店街の店。なんともアンバランスな構図である。東新町商店街の入り口には、「ようこそ!アニメのマチ★徳島」という看板がある。アニメは若者の好きなもののひとつだ。若者のニーズに適っている。それなら、アニメのマチとして、商店街にアニメグッズを揃えるなど、中途半端にではなく、とことんアニメで攻めていくべきではないだろうか。</p> <p>「シャッター街」の問題を解決するのは、非常に難しい。私には、地域を活性化させるための知識が、まだ十分に備わっていない。だから、まずは、先生方のパネルディスカッションでの意見を聞き、問題を解決するための方法を模索していく予定だ。</p>	<p>シャッター街の問題は、例えば、アニメのまちにしようと考えて、若い人がアニメの店を出そうと思っても、出すのが簡単ではないという流動性の問題があります。土地の所有と利用を分離して考える、また、エリアマネジメントという視点から、商店街全体の利用促進をはかるような仕組みを考えて行くことが重要です。以下の本をまとめてあるので、読んでみて下さい。</p> <p>矢部拓也 (2006) 「3 章地域経済とまちおこし」『地域社会の政策とガバナンス (地域社会学講座)』東信堂</p> <p>固定リンク: <a href="http://amzn.asia/hCTI200">http://amzn.asia/hCTI200</a></p>
-----------	--	--

矢部	<p>街づくりとはある程度の人口の流入、経済の発展がもともとあるところでないかと授業で見たような活動は難しいのか。国内でも人口の出入りの多い名古屋だからこそ実現したのか。</p> <p>私の地元はかなり人口が減少している。特にそう感じるのは駅前の商店街である。見渡すとシャッターのしまった店が多く、人通りも少ない。また、たまに新しく飲食店や学生が遊べるカラオケ店などのお店が開店するが、2,3年もすると閉店してしまうような現状である。こういったことは私の地元だけではなく、全国各地で起きており、その悪化具合はその場所によっても異なる。このままだと地元で U ターンする若者がどんどん減少し、格差が生まれてしまう。それを何とかして打破する必要がある。</p> <p>そこで、授業で取り扱われたような学生とそれに協力する大人がクラウドファンディングなどを利用して、面白い店などを開店し、それによって商店街を活性化させることが可能であるならば、ぜひ、活動に参加してみたい。</p> <p>自分なりの見解として、先に述べたようなかなり人口減少が進んでいる地域の活性化は見込みが限りなく低い。</p> <p>なぜなら、授業内で行動を起こす際には「同じように地域の活性化をのぞむ大人」が必要であると教わった。しかし、地方のそういった地域はかなり少子高齢化が進んでいる。つまり、そういった行動を起こそうとする世代の大人が少ないので、協力を募ることができない。</p> <p>また、地域活性化の成功例として「街コン」が行われたりしたが、まずその地域にいる若者は少ないだろうし、わざわざ恋人や結婚相手を探しに田舎まで足を運ぶ人もほとんどいないだろう。</p> <p>やはり、街づくりはある程度人口の流入、経済の発展が見込まれているところでないかと難しい。</p>	<p>ご指摘のように、人口量に応じて行う手法は異なります。授業で話したのは大都市型の活動で、万能ではないです。人口減少社会ですので、全てが「活性化」することは、理論的に不可能です。人口が減少している状況での「活性化」は我々が一般に考えるのとは違う方向かもしれません。考えてみて下さい。</p>
矢部	<p>6月1日に矢部先生が講義した、『現場に出て考える:クラウドファンディングで朝ごはん』の授業について書きたいと思う。2014年をピークに人口増加は止まり、その後は少子高齢化とともに人口減少が続き、人口拡大社会から人口減少社会へと移り変わる。そういう風に社会の状況が変わることで、これまでの常識が通らなくなり、先例に頼らず自分の目で確かめなければならない。そのため大学では実践授業を増やしたりや留学制度を取り入れたりするようになった、と講義を受けた。</p> <p>話の筋は通っていて間違いはないと思ったが、しかし、そううまくいくものだろうか。もう少し、生徒と大学の取り組みの距離を近づけるべきではないのか。これが私の問題提起である。</p> <p>ただの授業の一つとして実践授業を受け止め、特になんの気持ちも持たず、流れ作業のように事務的にこなしている人も少なくないはずである。少子高齢化そして人口減少社会でキーになるのは若い人の存在である。若い人が新たな行動を起こし、それが伝播し全世代の活力となり、少子高齢・人口減少社会に大きな希望を抱かせることができる。そんな若い人たちに育つために必要ことは、実践授業や留学ではなく、まず今の社会の現状を知り、危機感を抱かせることなのではないか。なぜ実践授業が増え留学制度が取り入れられているのかを、まず生徒自身が理解をすることから始めるべきである。各々が今の社会の現状に意見を持ち、それを実践授業や留学を生かして自分の中で回答を見つけていくべきである。そうすることで生徒と大学の取り組みの距離が縮まり、実践授業を増やし留学制度を取り入れた意味を成すはずである。</p>	<p>自然に授業を受けている中で、地域作りの意義などが学べる授業が理想なのですが、そうっておらず、ただ、学生を忙しくさせているだけでないのかと懸念しています。</p>

<p>矢部</p>	<p>1 どのような問題なのか...徳島県の地域創生、地域活性化について。本当の意味での地域創生、地域活性化とはどのようなものなのか、また、地域を盛り上げるために、私たちにどのようなことが出来るのか。</p> <p>2 なぜその問題を扱うことが必要なのか...現在、徳島県は全国を上回る速さで人口減少と高齢化が進んでいて、これからもどんどん進んでいくと予想されている。地域創生や地域活性化などが叫ばれているため、市や県が徳島を盛り上げるためにさまざまな取り組みをしている。それをキャリアプラン入門の時に学んだ。しかし、私はそれを聞いた時にその取り組みが本当に地域創生、活性化に繋がっているのだろうかという疑問を持った。また、阿波踊りなどで盛り上がったとしても、それは一時的なものであって本当の意味での地域活性化には繋がっていない。問題解決のために早く取り組まないとどんどん人口減少が進んでいくため、この問題を扱うことが必要だ。</p> <p>3 本当の意味での地域創生・地域活性化とは、県や市、街が賑わっていることであるが、人と人との繋がりを大切に、強めることもそうである。地域を盛り上げるためには、土日などの休日に地域の人と関わる機会を設けるイベントを開催すれば良い。なぜなら、地域を盛り上げるためにはたくさんの人の力と協力が必要であるからだ。県や市が動いたとしても、市民が動かないと普段から街を賑わせることは難しい。また、県や市に任せるだけでなく、私たち市民一人一人が考えていかなくては地域創生は難しいからだ。</p>	<p>その通りなので、何か、具体的な実践ができる場がもっとあるといいなと思っています。</p>
<p>矢部</p>	<p>講義では、「これまでの常識が通用しない時代になっている。自分で考え、実践しなければならぬ。自分の意志で、地域で活動する、ということが大切だ」と聞いた。また、学生の自主活動のビデオである、クラウドファンディングで朝ご飯屋を運営しているのを見た。学生たちはクラウドファンディングに成功し、そこから営業開始に向けた準備をしていた。</p> <p>そこで、クラウドファンディングの成功率は高いのか、という疑問を抱いた。もし成功率が高ければ、地域の現状を変えるために何か事業を始めたい、という人たちが事業を始めやすい。</p> <p>私の見解としては、クラウドファンディングの成功率は高くなっている。なぜなら、クラウドファンディングの支援額について、「日本の主要クラウドファンディング 10 社の調査では、2014 年 7 月の 15.5 億円から 2015 年 7 月の 35.5 億円へと急拡大している」からだ。これは、インターネットが普及したこと、クラウドファンディングの認知度が上がったこと、社会の改善のために起業しようと試みる人とその支援者の増加が関係しているのだろう。</p> <p>注 1 三菱 UFJ 信用銀行「クラウドファンディングとその特徴」, <a href="https://www.tr.mufg.jp/houjin/jutaku/pdf/u201509_1.pdf">https://www.tr.mufg.jp/houjin/jutaku/pdf/u201509_1.pdf</a>, 2018/6/25 アクセス)</p>	<p>クラウドファンディングの意味は、多くの人に活動を知ってもらう意味があります。また、広範囲から資金を集める意味があり、ある意味、地域社会に限定されたところからの開放という意義があります。資金調達で達成しているところの多くは、自分たちのネットワークを活用して連絡して、獲得額を達成しています。当たり前ですが、クラウドファンディングに参加したからといって簡単に資金長田津ができるのではなく、いろいろな自己努力が必要なようです。</p>

<p>矢部</p>	<p>パネルディスカッションで取り上げる話題として、先生方それぞれが提案する地域活性化プロジェクトについてのディスカッションを提案する。矢部先生の講義で挙げられていた朝ごはんプロジェクトや徳島市内で行われている徳島マルシェなどといった地域活性化プロジェクトが計画されたり、実行されている。しかし、このようなプロジェクトにはいくつかの問題も存在する。例えば、資金調達をどう行いかや、継続は可能か、住民の収集、参加は見込めるか、また少子高齢化も考慮したプロジェクトである必要もある。そこで、先生方にそれぞれが考える地域活性化プロジェクトを挙げていただき、そのプロジェクトによって得られるものなど、メリットとデメリットについてのディスカッションを提案する。多くの大学の学生や地域の企業がプロジェクトに取り組んでいるが、子供が少なく高齢者が多いという地域ではまず住民の参加が得られなかったり、継続性がなかったりと、地域活性という点に大きな成果が得られない現実がある。それぞれに専門をお持ちの先生方による、専門を駆使したプロジェクトの提案とパネルディスカッションによって、地域活性化にプラスの影響を与えることができるかと期待できる。以上より、パネルディスカッションで取り上げる話題として、先生方それぞれが考える地域活性化プロジェクトについてのディスカッションを提案する。</p>	<p>すごく地味な活動ですが、熊本城東マネジメント株式会社によるエリアマネジメント会社を10年前に立ち上げて活動しています。</p> <p><a href="https://kjmc.localinfo.jp/">https://kjmc.localinfo.jp/</a>  矢部拓也・木下斉(2009)「中心市街地活性化と地区経営事業会社：熊本城東マネジメントによる地区経営の試み」『徳島大学社会科学研究所』22, 47-68, 2009-02  <a href="http://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/62649">http://repo.lib.tokushima-u.ac.jp/ja/62649</a></p>
<p>矢部</p>	<p>問題は地域創生のために大学生という若年層はどういった立場で地域に貢献すべきか。地域創生が叫ばれる現代において、将来の日本を背負っていく若年層がその地域創生にかかわることは重要なことである。地域創生のためにはその地域が経済的に活性化することはもちろん、移住者が増えるなどして人口が増えることが必要である。そのためには、若年層が来たいと感じる地域にしなければならず、それは同じ年代の若年層が、自分たちが住みたいと思う街に近づくことで可能になるからだ。</p> <p>クラウドファンディングなど、経済的に余裕のない大学生でも、多くの人から出資を募ることができる。学生という立場でも、やる気としっかりとした目的とイメージがあれば、様々な取り組みを行うことが可能な時代である。地域創生というのは多くの年代のひと、そして多くの立場の人が取り組むことで可能となる。その中で、若年層である学生がどのような立場で地域創生にかかわることが重要であり、そしてどう貢献することが地域創生につながっていくのかを問題として扱い、考える。そうすることで徳島大学の学生が、徳島という地域創生が叫ばれている場所で、地域創生のために自分たちが何ができるかを考えるきっかけとなり、結果として徳島の活性化へとつながっていくため、この問題を提起することが必要だと考える。</p>	<p>日常の消費行動を変えて、なるべく地元のものを買うようにしてみてもどうでしょうか？ 地域内経済循環を作る試みはだれでも可能です。</p> <p>「循環型経済」をつくる(図解でわかる田園回帰1%戦略)</p> <p>藤山 浩  固定リンク：  <a href="http://amzn.asia/7mACmIU">http://amzn.asia/7mACmIU</a></p>

<p>矢部</p>	<p>キャリアプラン入門が必要なのか 現状のキャリアプラン入門は必要だとは思えず教員の方々のキャリアプラン入門を受ける必要性についての説明も納得できるものではなかった。私自身はキャリアプラン入門は必要ではないと考える。その理由は第一に情報が古すぎることである。具体的に言うと先週までの就職についての話であるが、私が去年数人の講演会も行っている実績のある就職を指導している人たちから聞いたネットをよく見る今の時代では間違った就職の捉え方そのものであった。私自身も去年国土交通省専門行政職で採用していただいたので私が話を聞いた指導員の方たちが正しくキャリア支援室の方が間違っているであろう。第二に授業の対象としている範囲がせますぎることである。あるときは教員志望あるときは公務員志望それ以外の生徒にはお構い無しの授業ばかりである。教員の方々はよく自主性、主体性を口にするが出席しなければ卒業できない授業で自分には関係ない、ましてや古い情報を無理やり聞かせ続けるというのは明らかに自主的な活動を妨げるものである。客観的に考えれば必要ないことは明らかであるのにこのような授業がいまだに行われているのは明らかにキャリアプラン入門が必要であるかを大学が検討していないからであろう。こうしたことから私はキャリアプラン入門は必要ないと考える。</p>	<p>その通りだとおもいます。キャリアも多様化し、就職活動に関しての変化が早い。知識を教えるのではなくて、そういった情報を集める集め方を教える授業に特化した方が良いと思います。是非、担当の教員に伝えて下さい。</p>
<p>矢部</p>	<p>若者の地域離れについて 以前、若者が企画し主体的に動き地域発展に貢献するといった講義があった。しかし、現在では若者が地域離れし、県外流出が増加しているのが現状である。その問題をうけて、若者が流出してしまうのは若者自身に問題があるのかそれとも衰退してしまっている地域に問題があるのか、若者はなぜ地元を捨てて出て行ってしまうのかそして、若者の流出の防ぐにはどのようなことが有効なのかなどといったことを議論していただきたい。 このまま若者の流出が増加していくと。地域は過疎化していく一方でありそれは限界集落の増加につながってしまうからである。限界集落があることにより空き地や空き巣などの増加により治安が悪化しメリットがなく、高齢者ばかりであると経済面も安定せず同じことの繰り返しとなってしまう。そのため、対策が必要とされる。対策として、企業誘致や空き家を利用した事業などが有効とされている。そうすることでその事業関連の人々はその付近に住むことになり高齢者率も低下し、何かと若者も増え地域としても若者の力があることにより高齢者にとっては、住みやすい場所となるからである。 この問題には、長期的な視点を持ち時間をかけゆっくりと解決していくべきである。</p>	<p>私自身は、若者が地域を離れて都会に行くことは当たり前だと思っており、無理して留めることに労力を掛けるのは無駄だと思っています。はじめから、対象者を決めるのではなくて、地域の資源を評価する人物を、世界中から集めてくるという考え方にシフトしないと、将来はないと考えています。</p>

<p>矢部</p>	<p>私は、2つのことについてパネルディスカッションをしてほしいと考えている。1つ目は、留学のことについてである。なぜなら、総合科学部は他の大学の文系学部と比べて留学に力を入れている。また、総合科学実践プロジェクト J を受講して、夏の間外国へ行く人もいる。だから、もっと留学についてもっと議論を深めていくべきである。また、パネルディスカッションに参加される先生方の留学体験などをお話いただけるともっと留学に興味を持つ学生が増える。そうすれば、もっと異文化理解をしている総合科学部の学生も自然と増える。また、学部全体の雰囲気もより国際色が豊かになる。</p> <p>2つ目は、現場に出て考えることである。今までの小中高では、座学中心の学習がほとんどであった。しかし、大学に入学してみて、答えのない問題に取り組むことが大学での学習であることを改めて感じた。これから、フィールドワークを取り入れた授業も多くなっていくであろう。だから、フィールドワークの大切さをもっと知りたい。そうすれば、フィールドワークをどんどん取り入れて調査をして、自分が問題と思ったことに対して、少しでも解決策を見いだせることが自然とできるようになり、少しでも研究を円滑に進めることができるようになる。</p>	<p>留学も、フィールドワークも、語るモノではなくてするモノなので、是非、自分で飛び込んで行くことをおすすめします。</p>
<p>矢部</p>	<p>議論すべきだと考えたのは、大学院への進学が進学する者と大学院卒業後の就職にとって本当に有意義なものであるかという問題についてです。第8回の授業で、大学院への進学を決めた人は留学経験から考えた人が多いと挙がっていたことから、大学院進学について留学との関係以外にも問題があるのではないかと考えました。</p> <p>大学院への進学は自らの学びを深め、学部での学習以上に研究に時間をかけることのできるものです。大学院を卒業することによって就くことのできる職の幅も広がり、給料が上がることも多いです。しかし、女性は大学院卒業後に就職してもすぐに結婚や出産で退職してしまったり、文系の大学院へ進学しても大学卒と職業に大きな変化がなく、大学院での研究が生かされなかったりということもあります。</p> <p>自らの知識を増やし自身を成長させる側面と実際に就職活動をする際に起こりうる問題を踏まえたうえで、どのような目的と意識を持って進学について考えるべきかを話し合うことで学びの姿勢に足りないものや大学もしくは大学院卒業後についてを考えることができます。これは自分のことだけでなく、教育者となったときにも役立つと考えます。</p>	<p>まさに、キャリアプラン。ワークアンドライフバランスの問題ですね。目的と意識も大切ですが、できれば、不足する社会的サポートがあるなら、それを自分たちで作ってやるぐらいの気概で生きていくことが、今後の社会をサバイブしてゆく精神だと思います。</p>
<p>矢部</p>	<p>講義の最初に、「講義を行う上でレジュメを配らない理由」ということをお話しされました。今は「調べられる時代」になったもので、その場で調べられるのならインターネットでも携帯電話でも何でも使おう。インタビュー等の聞き取り調査において、「メモ」をとることは必要不可欠であり、何が大事なのかを「感じ取って」書いていこう。そのようなことをお話しされました。ただ他の講師を見ると、穴あきレジュメを配布したり、ただ文が書かれたレジュメを配布したり、ディスカッションを中心に講義を行う人がいたり、講師によって何を中心に講義を行うかは様々です。講師達が、なぜ統一した講義を行わないかということに疑問を持ちました。</p> <p>ペーパーレス化がますます進む社会であると共に、板書、ノート等を使わない講義・授業が増えている社会であります。コスト削減のために、ますますこれから紙媒体を使わない社会が増えるとともに、「書く」ことがタブレット上でできる世の中になっていくでしょう。生徒や学生は、一定の講義形式に統一されることで、混乱を防ぐことができるとともに、講師らは学生の自主的な学びに貢献できるでしょう。</p>	<p>講師達の授業方針の統一がないのは、授業のやり方は講師に任されており、全体を統一するガバナンスの仕組みになっていないからです。カリキュラム全体の運営手法＝経営の問題です。</p>



<p>矢部</p>	<p>矢部教授のクラウドファンディングの講義はとても面白かったです。学生がここまでできるのかと驚きもしました。しかしクラウドファンディングを行ったことで地域の温かさや行った学生の成長はあったかもしれませんが、町にそれほど大きな影響はなかったのではないかと思います。もし町を活性化させることを目的にするならもっと若者を引きつけるようなものを売りにする方がいいと思います。クラウドファンディングのテレビの映像を見ているとタイのお茶漬けで来てくれているのは年齢層的に若い人が少なかったように思います。町の衰退の大きな原因は若者たちがその地域を離れてしまうこと。それならもっと若者のニーズに応えるような方がいいと思います。例えば地域の特産物をインスタ映えするようなお洒落な食べ物を作り提供したりもしくはインスタ映えするようなスポットを町のあちこちに作ってみたりなどがいいと思います。SNSを見ていると10代20代の人が足を運ぶ場所はそのようなSNSでアップしたくなるようなお洒落な場所が多いからです。</p>	<p>自分でやれることは、是非、自分で実践してみても、その結果を報告して下さい。</p>
<p>矢部</p>	<p>矢部先生はこれまでの例では通用しないという意見を持っていた。そのため、私たちは新しいものを作ることを求められているというメッセージを受け取った。前例を組み合わせ作り上げたものは完全なるオリジナルには敵わないのだろうか。これからの時代は、先生や親のように自分より長く生きてきた人々も経験したことがないものである。それは未来は誰もわからないからという理由だけでなく、これまでとは社会が変わりつつあるからだ。人口についてみただけでも、人口拡大社会から人口減少社会へと変化していく。そうなるこれまでの例は通用しないということも納得できる。だが、温故知新ということばがあるように、過去の例から学ぶこと、ヒントを得ることもあるはずだ。単に同じことをしても結果は同じとは限らない。しかし結果の違いから時代変化を考察することはできるはずだ。向き不向きはあるものの、全て新しければよいというものではないのだろうか。</p>	<p>そもそも、全てが新しいもの自体は存在しておらず、「新しい」といわれているものでも、過去との関連はあって存在しているので、こういった、全てあたりしければよいというものではないという論の立て方自体が成立していません。あと、考察できるのか、できないのかことを話しているのではなく、社会構造＝ルールを問題としています。</p>
<p>矢部</p>	<p>地方の過疎化は改善されるのでしょうか？  過疎化の問題点として、まず、人口減少、特に若年層が減少することにより、地域の高齢化が進むことが挙げられます。  高齢化が進むことで、地域の活気が失われ、産業が衰退します。また、孤独死も増加します。限界集落の増加にも繋がります。さらに、行政にとっては、税収が減少することで、行政サービス(教育機関や医療機関)の提供が困難になります。  公共の交通機関も廃線や減線となりやすいです。  地方の過疎化にはこれらの問題点が挙げられます。  過疎化を解決するには移民を流入するか、若者が帰ってこれる状況を作ることが必要ではないかと思えます。しかし、過疎化の進んでいる地域では就職先がなく、若者が就職先を求めて都会に出ていくという状況にあり、若者が帰ってくることは困難です。そこでどうすれば地方の過疎化を改善出来るのか、またそれは可能なのかということの問題として挙げます。</p>	<p>日本全体として、人口が減少しているの、仮にどこかの人口が増加した場合は、その増加分は他の地域の減少分になります。なので、日本全体で考えたら、過疎が解決することはなく、解決するには移民などで人口をどこかから持ってこなくてははいけません。</p>

矢部	<p>矢部先生の授業では、現在の日本の問題として、人口の減少により地方の問題が最先端であると学んだ。そのような状況で、名古屋市立大学の学生が、衰退していた駅西で朝ご飯を提供し始めた。だが、このクラウドファンディングは、学生だけで行ったものではなく、大人の力を借りることで行うことができた。学生の力だけではどうして行えなかったのだろうか。考えられることとして、まず学生には十分な資金がなく、クラウドファンディングを行う知識もない。また、学業やサークル、バイトと多忙である。しかし、地域活性化をするために他の方法もある。例えば、現在多くの人々はスマートフォンやパソコンを持ち、SNS を使用したり、動画を見たりしていて、Instagram や Youtube が人気である。そこで、そういった SNS を活用したり、学生の視点で動画を作成したりすることで地方の魅力を発信できる。</p>	是非、実践してみてください
矢部 教授	<p>徳島市阿波踊り協会の4億近くの責務返済問題。 阿波踊りは徳島の最も重要なイベントであり、4日間で100万人以上の人が徳島に訪れ、大きな収益を見込めるものである。しかし、徳島市観光協会は4億近くの責務を抱え込んでおり、徳島市観光協会が破産した場合その責務は徳島市が肩代わりしなければならない。それは徳島市民である私たちがその責務を払わなければいけないということだ。阿波踊りは徳島のメインイベントであり長い伝統を持つ祭りである。この伝統を途切れさせてはならないし、徳島は今 VS 東京を掲げ地方創成を目指しており様々な活動をしている中でこれは大きな問題だ。誰も借金を払いたくはないし、徳島を今よりもっと活性化させていくためには阿波踊りの運営も変えていくべきであるのでこの問題を徳島に住む私たちが議論していくべきである。</p>	<p>儲かる阿波踊りにすべきというのは私も賛成です。あれだけ人が来ているのですから、運営をきちんとすれば、利益を出すことは難しくないと思われま</p>
矢部	<p>矢部先生の授業では、私たちがこれまでの社会とは全く違う社会構造の中で自分なりの成功法を見つけるために、実戦的経験で学ぶことの大切さをテーマに扱っていた。大学では、知識を学ぶことも必要ではあるし、自分の考えを表す方法を学ぶことも大切である。だがしかし、自分たちで考えて実践する方法について学ぶ機会というものは少ない。そのような本が世の中にあるわけでもない。また、実際に自分たちでプロジェクトを経験した学生の体験談を聞くことで、自分たちもやりたいと考えた学生も多い。そんな中で、今回はそのようなアクションを起こすのに必要なもの、段取りなどをより一歩踏み込んだ形で扱ってほしい。また、そのようなアクションを起こす際の注意や、先生方のこれまでの人生経験から、そのような学生たちへの意見などを聞いてみたい。</p>	<p>迷う前に飛ぶ。なるべく興味のある所に出かけて行って、知り合いを作っていくことを繰り返して行けば、自然に実践の機会に出くわします。</p>
矢部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにして地域の活動のPRをしていくべきか</li> <li>・大学のように自主的に活動する人や時間がとりやすい人が集まりやすい場や、もともと繋がりが強い地域ならば問題はないが、そうでない場合、仕事に追われて忙しかったり普段なかなか接することができなかつたりして、地域活動の場に出向いたり行動を起こしたりするきっかけが中々見つからなかつたりするから。</li> <li>・テレビのCM やスマホ・パソコンへのメール配信等日常生活において目につきやすいところへより多く発信していき、活動内容も、手短なアンケートやアイディア・意見の募集等手のつけやすいものをより増やす。</li> <li>・多くの人に参加してもらうためのきっかけとしてより広く認知されなくてはならないので、まずは広く浅くカバーし、興味を持ってもらうところから始める。</li> </ul>	<p>考えたら、即実践してみることで、効果は分かります。</p>

矢部先生	<p>私は矢部先生のクラウドファンディングで朝ごはんの講義で、ある大学生たちが地域活性化の一環として地元の食材を使い、朝ごはんを作るといった話を聞きました。僕は自分たちでパワーポイントを作り、朝ごはんを作る計画を紹介したりする姿を見て、主体性を持って動き経験することの大切さを学びました。</p> <p>その中で私が今回問題提起をしたいことは、クラウドファンディングという制度を使い、資金を集めるにはどうすればよいのかという事です。なぜなら、興味を引く企画や、社会に貢献する可能性が高いと判断されるものでないと、誰もお金を寄付や投資をしてくれないと思ったからです。またこの問題を扱うことのなぜ必要かという、人の納得をさせるプレゼンの仕方を同時に学ぶことができ、将来役立つと思ったからです。</p>	クラウドファンディングを運営しているネットの会社は、多分、説明会などを行っていると思うので、そういうのに参加してみるのが早いと思います。
矢部	クラウドファンディングで大学生が朝ごはん屋を運営しているという話があったが、その朝ごはん屋さんも予定ではいつか閉店することとなっている。大学生が地域社会に入っていくことで地域活性化に繋がったとあったが、もし閉店してしまったらどうなるのか。お店を続けることに意味があるのか、このようなことに取り組んだ、という事例を作ることに意味があるのか。誰かが取り組んだことを先例に、新しいことを始めてみようとする人を増やすことが大切なのか。大学生は何事にもチャレンジできるが、その取り組んだことを広めていくことが大切である。取り組んで終わり、では意味がない。しかし、その終わりがいつなのか。後輩に朝ごはん屋を引き継いでいくのか、後輩は後輩で新しい取り組みを考えるのか。	3年生が中心であったので、就活が始まるまでという期限付きで始まりました。他大学が事業を引き継ぐなどの話もでしたが、結局、現在も休業したままになっているようです。学生の事業は立ち上げよりも継続が大変です。
矢部先生	<p>クラウドファンディングで朝ごはんの授業において、大学院に進む先輩方は留学での学びがきっかけであり、徳島大学での学びはぬるいとしていた。これは大学院にまで進んでまで学びたいことが徳島大学でみつからないことが多いということなのではないだろうか。また、名古屋市立大学での先例をもとに徳島でもなにか活動ができればよいが、授業コメントで「貢献したい」と言うのは簡単だが、実践には様々な問題があり、難しい。</p> <p>大学は学びの場であり、社会人になるための期間であるため、学習意欲が留学しなければ出てこない現況はよくない。また、地域貢献したいと思いつつ、具体的な発想がない上に、多くの人の協力や資金が必要となるため現実的に厳しい。</p>	特に、何もしなくても、大学の成績がトップであれば、それなりの企業は興味を持ってくれると思いますし、現在は、人手不足ですので、留学や地域貢献的なことをしなくても、就職は可能だと思います。
矢部先生	<p>地域創生は素人や学生に可能なのか</p> <p>地域創生をやるといったら聞こえは良いがかなりの顔の広さと知識と協力がないと成り立たないと考えたから</p> <p>この間の授業で学生が主体で地域創生を目標として朝ごはんの店を出したという内容を扱っていましたが、それにも矢部先生をはじめとするたくさんの専門家や学者などが関わっていました。けれど実際学生で地域創生のために何かしたくても誰に協力を受けていいのかわからないしとりあえず進めたとしても必ず失敗失敗します。</p> <p>地域創生はよく成功例ばかりが取り上げられ失敗例はあまり目立たないが実際に成功をおさめているのはほんの一部でほとんどが失敗に終わっているから</p>	何をもって成功、失敗とするかですが、ここでいわれている失敗というのは、具体的にどのようなレベルのことなのでしょう？ 自分のやっている事業は、試行錯誤を繰り返して進めて行きますし、事前の想定と現実の乖離があまりにも激しい場合は、撤退するのは悪いことではなく、次なる成功へのステップです。短絡的に成功、失敗といえるのは、事業目的に必然がなく、絶対にする必要がなく、何となく気分で始めているから出ないでしょうか？

矢部	<p>矢部先生の「現場で考える クラウドファンディングで朝ごはん」という講義を受けて、わたしも徳島で同じように地域のために貢献したいと考えた。そこで、徳島でクラウドファンディングを行うにはどのような場所で、どのような物を店に出して行うのが良いかという問題についてパネルディスカッションをしていただきたい。徳島は人口が少ない田舎の地域で、高齢化が進み、近年では商店街もシャッター街へと変わっていつている。そんな過疎化が進んでいるこの地域の活性化を図るためには、講義であったようなクラウドファンディングが有効な策の一つである。地域に貢献するために、最良の策を話し合っていたきたい。</p>	<p>クラウドファンディング先にありきではなく、やりたい事業が有り、それに適切な資金調達方法があります。少額であれば、自分たちの小遣いですればいいです。まずは、自分たちがやりたいことを考えましょう。</p>
矢部	<p>1 どのような問題なのか 徳島を活性化するには具体的にどんな取り組みができるのか 2 なぜその問題を扱うことが必要なのか 徳島は活性化されていないから 3 自分なりの見解 矢部教授の講義で名古屋市立大学の学生の活動を知って、実際にあのような活動ができれば徳島も変わるかもしれないと思ったが、徳島でも学生が主体となった活動で徳島を変えることができるのだろうか。例えば、どんな活動があるのだろうか。 4 その根拠 徳島にはいいところがたくさんある、活性化しようと言われているが、実際に行動を起こせていないし、誰かの活動が活性化に繋がっているという実感もないから。</p>	<p>人にきくことではないので、まずは、マチをぶらぶらしてみても、自分でよいところ、やりたいこと、興味のあることを発見してみてください。</p>
矢部	<p>ここ最近「東京一極集中」など人が1箇所に集まりすぎることが問題視されている。その流れを是正しようと地方も様々な努力で人を呼び込もうと努力している。しかし現実には残酷で住民の高齢化、人口の減少は加速するばかりでいつしか活気もなくなり諦めのムードが漂うようになった。しかし、そういった地方にも日本の素晴らしさは健在でありそこでしか味わえないものがあるのでそのプロデュースの仕方次第で私は地方部の再興の可能性はまだまだあると見ている。これからの日本の地方部や田舎部といった所に未来はあるのかという所を先生方には論じていただきたい。</p>	<p>人口が減っても、未来は平等にやってきますし、人がいなくても未来はやってきます。最も重要なのは、どのような未来像を自分たちで描くかです。</p>
矢部先生	<p>日本現代の状態では、お年寄りとお若者の矛盾は段々と酷くなって来てました。若者は自由と豊かな仕事環境が欲しいです。お年寄りは若者をもっとしっかりして欲しいです。今のような矛盾はどう思いますか？ 社会階級の間での対立が激しくなって、これは直面しなければならない問題です。 自分の考えは、みんな年寄りになりますから、これからは若者の世代に間違いありません。若者なりの働きやすい環境を作るのは検討すべきだと考えられます。若者とお年寄りの間関係はもう貢ぐと貢がれる関係ではないです。</p>	<p>年金制度自体が、世代間再分配（扶助）の仕組みでできているために、若い人から税金をとり高齢者にまわる仕組みになっています。ベーシックインカムや、世代内負担にする必要はあると私は垂考えます。</p>
矢部	<p>矢部先生のクラウドファンディングに関する講義は地域創生学科を考えている自分にとって、地域活性化の方法を知ることができとてもためになった。しかし、動画を見る限りで見た感じでは、お店の客がお年寄りに偏っていると感じた。地域発展をするとしても、これからの将来を担う若者に影響があまりないのでは、この政策の効果が薄れるのではないだろうか。若者の来客をもっと目指すのであれば、もっと Twitter などの SNS などの利用や、大学内での呼びかけを増やすべきであると思った。</p>	<p>朝ご飯を食べる人に朝ご飯を提供することに第一義的な意味があります。なので、対象は朝移動している人になります。</p>

矢部先生	大人の人たちは、学生である私たちに進むべき道を示すために、とりあえず自分たちが過ごし歩んで来た社会の経験からアドバイスをくれます。しかし、現代の日本の人口は世界と比較してもお年寄りの数が多く占められており、昔とは環境がまるっきり変わってしまっていて、昔の経験や常識が今では通用しなくなって来ています。そこで、「人口拡大社会から人口減少社会へと突入していく今、私たちがしなければならないこと」を題材にディスカッションをしてもらいたいです。	そういう一般的なテーマは、残念ながら私は苦手です。ひとからしなくてはいけないことを聞くのではなく、自分がやりたいことを、縮小社会対応型にしてゆくことが、豊かな社会を作って行くことにつながると思います。
矢部	地方が衰退していて、都会にばかり人が流出する現状を止めることが必要である。地方をもっと盛り上げることで流出した人だけでなく、都会生まれ都会育ちの人も地方に住みつく。地方の高齢者はもっと世代の違う人たちと関わるべきだし、地方にも良いところはたくさんあるので、知られていないのはもったいない。もっと魅力を知ってもらうことが必要である。しかし、都会の人は地方の魅力を知らない。そこが問題点だ。どのような方法で知ってもらうのかを考える。	具体的な地方の魅力とは何でしょうか？ 抽象的な議論をしても始まらないので、あなたが思う地方の良いところを100提示してください。
矢部	矢部先生は講義の時にキャリアプラン入門講座について良い印象を持っていないように話していましたが、他の先生方はキャリアプラン入門講座についてどう考えていらっしゃるのでしょうか。現在のキャリアプラン入門講座は、学生がどのような目標を持って講義に臨めば良いかわからないようなものだと感じます。この講義は学部共通のもので、来年度以降も開講される可能性も十分にあるので、良い方向に変えていってほしいと思います。	多くの教員は、キャリアプランで何をしているかすら知りません。私も、今年関わってみて始めて知りました。次年度に向けては、私の判断で変えて行く予定です。
矢部	ぼっぼ街や新町商店街の有効活用方法について 現在では、シャッター街と化しており、商店街を利用する客層は高齢者が多くなっている。駅周辺の商店街が賑わうことによって、他の市と比べて魅力的な場所が少ない徳島市全体も賑わうと考える。その為には、若者や他県の利用客が増えるような商店街づくりが必要だ。だからこの問題を先生方に考えていただきたい。	まずは、それらの商店街のテナントリーシングを行う権利が私にはないので、幾らアイデアをもっていても、絵に描いた餅で実現しません。全体像を考えるのではなく、自分が関われる個から変えて行くことが大事
矢部	キャリアプランのような就職に関する指導の仕方は変わるのか。 前に授業で、昔と状況が違うという話を聞いて、今の状況に合う就職指導を知って、自分の就職活動に役立てたいからです。また、就職に関するマイナス面のことが話されていないと聞いたので、マイナス面のことをしっかりと知って、キャリアを考えていく必要があると思いました。	昔に比べると、人手不足で、売り手市場なので、普通にやっていたら、就職活動は問題ないはずですが。ただ、自分は普通より下の場合は、一生懸命授業を受ける必要があると思います。
矢部	自分が何かのためにやりたいって思っても、1人だったらやはり活動することが出来ないと思うんですけど、活動って何人からできるようになるのか。また何人くらい集めたらいいのか。 私は愛媛県で田舎の町に住んでおり、過疎化が進んでいます。この町のために何かしたいって思っても1人だったら何も出来ないなあと思ったからです。	自分1人の場合は、どこか先行して活動しているところに加わって経験を積み、1人で地元に戻った場合、どうすればいいかが自ずと見えてきます。
矢部先生	徳島において一番地域創生をしていく上で大切なこと、基盤になるもの、観光客増加するものは何ですか？ (これから徳島で生きていく私たちにとって一人一人ができることや、意識しておかなければならないことを知りたいから。また観光客を増やすのも良いが、その前にまず私たちが徳島に誇りを持って生活したいと考えたから。)	そういう抽象的なことは分かりません。観光客といっても、団体旅行なのか個人旅行なのか、外国人なのか日本人なのか、外国人であれば何人であるのか、、、いろいろな特徴があり、目指す所によりすべきことは異なります。
矢部	どのよいにして、大学生にチャレンジ精神をはぐくんでいくべきかという問題である。それは、我々日本人は特に、リスクをあることをしたがる傾向がある。それを大学生活を通じて、どのような授業や行動を起こせば、考え方を変えることができるかということは今夏鶉の討論を通じて、私も考えてみたいという思いがあるから。	推薦入試や、センター試験をなくして、試験一発勝負にすればいいと思います。

矢部	日本の学習スタイルについて。出席を取ることや受動的な授業の受け方といったように古いスタイルは必要なのか。私は国際化の進む世界で日本のスタイルは時代遅れになるのではないかとおもう。国際化にあわせてもっと欧米流にするべきではないかと考える。	出席を取らないことが欧米流なのかは知りませんが、具体的な欧米流を提案して行けばよいと思います。
矢部	徳島県が打ち出した「VS 東京」は失敗か成功か 自身が徳島出身であり、県が人口縮小社会においてどのような施策を行うのか気になっていたが、「VS 東京」を宣言した後の具体的な活動が見えてこない。「VS 東京」に効果はあったのか。	一応、県庁の施策で有り、政策評価がなされているはずですので、県庁のホームページで政策評価を探して下さい。
矢部	町おこしは本当に必要なのか。	必要不必要の議論ではなく、やりたい人がやればよいと思います。
山口・矢部	キャリアプラン入門は本当に意味があるのか。ひとつ、今社会人としての振る舞いを聞いたとして、半年後に覚えている者が何人いるだろうか。学生なのだからかけるだけの恥をかいて成長していくのではないか。就活前には自発的にマナーなど学ぶのだからあえて今やる意味がわからない。ふたつ、進路選択のきっかけを与えられているのか。選択肢を知ることは必要である。しかし、授業内で十分に紹介しているかは疑問である。結局のところ、必要性がわからない。キャリアプラン入門はどのように役に立っているのか。全く実感がない。私ならばキャリアプラン入門は廃止する。	大学の必修授業は廃止できないので、中味をアップデートするしかないです。多分、キャリアプラン入門の単位をとらないと卒業できないはず。(矢部)  「大学設置基準」により、キャリア教育を行うことが大学に義務付けられていますので、やめることはできません。また、職業について理解しておくことは、やはり必要でしょう。全員が必修で受ける以上は、絶対に必要な知識や情報を与えなくてはなりません。それは、「頑張れば夢がかなう」とか「企業に選ばれる人材になるためにはどうすればよいか」といったことではなく、労働法の基本や、人間にとって働くことの根本的な意味などです。そういうことをちゃんと伝えられる授業に改善していきたいと思っています(→現時点では「予定」とまでは言えず、私の「思い」です)。(山口)
荒武・矢部	現場に出て考えるフィールドワークが適した学問と頭の中で考えたり文献を読むべき学問はそれぞれどのようなものか。 このテーマを選んだ理由は、せっかく複数の先生方がパネルディスカッションをしてくださるなら先生方によって違うアプローチのテーマを選びたかったから。また私がこれまでの総科の授業を受けて疑問であった事だから。 自分なりの答えとしてはフィールドワークに出るべきなのは社会学などの現在も観察できるもの。頭の中で考えたり文献を読むべき学問は、哲学などの社会に出ても多くの人に馴染みがなく過去の知恵に遡るもの。他には計算により答えを導こうとする理系の学問もフィールドワークは意味がない。また私は社会学の中の文化人類学の授業をとっているがその授業でこの学問は見方を変えれば範囲も変わると学んだ。よって大まかにはどちらがいいかという答えがあってもきっちり決まっている訳ではない、というのもこのテーマへの答え。	研究テーマにより、最適な方法が決まります。ただ、フィールドワークしていれば、文献読まなくていいわけではなく、調査前に事前に必要な文献を読んだ上で、ある程度の仮説をもって、現場に行くことが大事です。

私は、饗場先生に問題提起をしたい。

饗場先生の「主権者として必要な力」の講義が、2週に渡って行われた。

戦争を知らない世代がこれから日本、世界でも増えていくと願っている。ただ、同時に、戦争がどのように起こされるのか、私たちが「戦争」をどう考えていかなければならないのか、国が持つべき「民主主義」、憲法のあり方はどうなのかについて、今回学ぶことができた。

饗場先生は、現在の日本は「民主主義」、「立憲主義」の仕組みが壊されつつある状況だということを講義でお伝えになった。「民主主義」や「立憲主義」を守り、国家が戦争の道に進むことを防ぐために、賢明な市民として、政治リテラシー(政治への関心、知識、行動力)を高めることが必要だということを学んだ。

ここからが、今回の授業レポートの本題なのだが、「政治リテラシー」の高め方について、もう少し具体的に紹介があれば、講義が終わってからでもすぐに行動できる、1つの指標になるのではないかと問題提起を持った。(問題提起というよりは、提案に近いかもしれない。)

先生の講義に終わりの時間が来て、皆が解散になる。私は、そこで一気に、「いつもの日常」に戻るような気がしてしまう。まるで、学んだことが「学んだこと」のまま、頭の中にたまっているだけのように。

私は、今回、新たな視点を得たことや、俯瞰された日本の現在の状況を知り、自分がこれから「政治リテラシー」を高めるために何を变えていこうかと考えたときに、不定期に読んでいた新聞の習慣を変え、毎日さらっとでも全体に目を通そうと決めた。ただ、その程度の考えしか浮かばず、他にどんな手段や行動があるのかを、少しでも知り、具体的にすぐ行動に起こせたらもっと良い、ということが私の考えだ。また、饗場先生ご自身が、「政治リテラシー」を高めるために日頃から心がけていることにも興味があるので、ぜひお聞きし、私の生活に取り入れたい。

そう書くと、「大学生にもなって、『どう行動に移すか』の手段、方法なんかは、自分で調べ、実践していきなさい」とおっしゃる先生方もいらっしゃるだろう。全くその通りである。ただ、私の今回の問題提起も、私が、講義をくださった饗場先生に特にお聞きしたい事であるので、あえてこの場で問題提起させてもらった。

戦争や、現在の政治の話など、生活の見えない部分、興味がなければそのまま通り過ぎてしまいそうな事についての講義の後は、自分の生活に対する見方が、受ける前と後とで変化があり、それまでにない視点を得ることができるので、大変勉強になる。ところが、なにか具体的な行動をおこそうとなると、結局視点をただで、なにも生活に変わらないことが時々ある。

「政治リテラシー」を高めるために、私は新聞全面をさらっと読むことにしたのだが、他に先生からなにか、こういうサイトがおすすめだとか、誰かに会って話す機会がある、など「政治リテラシー」に良い刺激となることがあれば、ぜひともお聞きしたい。

今回の講義では戦争をどうやって防ぐかということがテーマであり、政治リテラシーによって欺瞞性のある政府を監視することが重要であるという結論であった。戦争を防ぐためには「そもそも戦争とは何なのか」という実態を知り、戦争の原因を探る手掛かりとすることが重要である。今回は実態を知るために日本における被害と特に加害に着眼していた。しかし、戦争の実態を知るために日本における被害と加害という側面で見るとは、戦争の原因を探るという目的においては十分条件ではない。理由は2つある。第1に日本の加害を探るがその後加害を行うに至る経緯を示しておらず加害の原因を探る手掛かりにたどり着かないからである。第2に観察対象が日本と交戦国に限定されることで、日本から交戦国への加害と交戦国から日本への加害に着眼点が限定され、戦争に至るまでの当時の情勢(東南アジア諸国は欧米によって植民地にされており、そこでは100万人単位での殺害が行われていた。(1)またそのようなことを行う国が海を挟んで日本の隣にあるという状態であったこと、当時の国際法、ワシントン体制などを踏まえることが不可能になるからである。当時の情勢を踏まえることは「侵略」「植民地」「自衛」「一般人」などの言葉の定義をするうえでも重要であり、その定義のしよによつては見えてくる戦争の実態は全く異なるものとなる。以上より被害と加害という側面で見るとは戦争の実態を見るうえでは十分条件とは言えない。よつて戦争の実態を見るには当時の日本が戦争に突入するまでの国際情勢(大航海時代から当時)を見ることが重要であり、そこでは数値による比較を行うことで当時の前提を踏まえる必要がある。また「人間は人間らしく生きたい、死にたくない」という原点に戻つた場合、戦争の対義語は平和(戦争を選択しない)であるのかという問題が生じる。人間は戦争で死にたくない所以对話を行う。しかしそれは話し合いが出来る相手に限定されたことである。家に入ってくる強盗に対して話し合いを行うことはできない。話し合いが出来ない相手に黙つてやられる状態を人間の尊厳が守られているとは言えない。なぜなら死にたくないという要求が達成されてないからである。欧米の植民地となつた国にはごく一部のタイなどの例外を除き戦争か植民地という選択肢しかなかった。なぜなら植民地になることは多くの人の死を意味したからである。人間らしく生きることを望むのであれば、戦争の対義語は平和であるのかを考える必要がある、それを基に「戦争とは何なのか」を考えるべきである。

参考文献:(1)ナポレオンと東條英樹

饗場先生への問題提起なのですが、“歴史”について突っ込んだ議論をしているので荒武からも一言。このコメントは先の大戦についての理解を武田邦彦『ナポレオンと東條英樹：理系博士が整理する真・近現代史』ベスト新書、2016年を借用していると拝察します。

君の提示する歴史像が正しいかはこの場で史料を提示することが出来ない以上、議論しません。

ただしこの授業の主旨から言えば次のことを問題点として指摘できます。「君の依拠するこの本がどこまで信頼できるのか」を一度考え直す必要があります。史料は適切に引用されているでしょうか？都合の良い解釈をしていないでしょうか？これは高校程度の世界史の知識と分析能力があれば十分に論評できるはずですが。……だからこそ「これまでの歴史像は偏向している」「キミたちの学んだ歴史教科書はウソだらけだ！」などというお決まりのフレーズで読者の思考能力を奪うのもこの手の本の特徴なのですが。

もう少し補足します。この武田先生の本。タイトルからしてツッコミどころ満載です。①「真の、本当の歴史」→なんで今頃真実が明らかになるのでしょうか？、それも②理系博士の武田先生がいつ史料を読み込み、明らかに出来たのでしょうか。

では中を開いてみましょう。歴史学の大要である史料の引用はどうでしょうか？ほとんどありません。他の人の論文や著書の引用についても同様で、どこまでが引用か、どこからが自分の考えかもあきらかではありません。山口先生の授業で教わつた手法から見事なまでに逸脱していることがハッキリと読み取れます。武田先生のように従来の見解を覆そうとする議論を組み立てるに際しては、信頼度の高い適切な史料・研究に依拠することは必要な作業です。少なくともこの本からは“真実の”歴史を得ることは出来ません。それに依拠するかぎり、君のコメントも信頼度が低くなってしまいますので、今後はご注意を。(荒武)



<p>饗場</p>	<p>饗場先生の授業で 731 部隊や朝鮮人強制連行やバターン死の行進や平頂山事件は教科書に載っていないといていた。そこで文部科学省の学習指導要領ではどうなっているのかきになって調べてみた。もし学習指導要領で教えると記載されていれば習う側の我々の問題でもあると考えたのだ。</p> <p>「家永教科書裁判においては、97 年の最高裁判決で、教科書検定制度は『合憲』とされましたが、検定内容に関して、第 3 次訴訟第一審判決(89 年判決、東京地裁)以来累積して、『草莽隊』『南京大虐殺』『軍の婦女暴行』『731 部隊』等の記述に関する検定を違法として 国 側 に 賠 償 が 命 じ ら れ て い ま す 」(<a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo1/gijiroku/07030627/001/003.pdf">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo1/gijiroku/07030627/001/003.pdf</a>、中央教育審議会 教育制度分科会(第 21 回)・初等中等教育分科会(第 51 回)議事録・配付資料,2018/06/24 アクセス)さらに「裁判の中で、1970 年 7 月 7 日の『杉本判決』は社会的にも大きな影響を与えたとされている。この判決では、教科書検定処分は執筆者の思想内容を事前審査するもので、憲法(第 21 条第 2 項)の禁じている検閲にあたり、かつ教育基本法第 10 条(教育に対する不当な支配の禁止)に違反する、とした。また、教育の内容や在り方を決める権限は国家にあるのではなく、国民(市民・保護者・子ども)にあるという『国民の教育権』論も打ち出された。この判決以降、検定はある程度緩和され、南京事件を教科書で取り上げることができるようになり、国語の教科書でも戦争体験や平和の尊さを語る教材が採用されるようになった」(<a href="https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2014/05/nenpo12-5.pdf">https://www.keiwa-c.ac.jp/wp-content/uploads/2014/05/nenpo12-5.pdf</a>、川又正之、検定済教科書制度の問題点、2018/06/24 アクセス)というのもあった。</p> <p>少し改善はされているみたいだがやはり 731 部隊など十分に学校で教えていない面はありそうだ。日本の加害の面と被害の面の両方を知っておく必要があるのにどうして学校では教えないのか質問したい。自分なりの意見としては日本は戦争でたくさん悪事を働いたのでそのすべてを教えることはできないというからと考える。</p>	
<p>饗場先生</p>	<p>高度に政治性のある行政・立法府の行為(統治行為)は、司法審査の対象外であるという考え方を統治行為論というが、統治行為論は認められるべきなのか、認められるべきであるならどこまで認められるのか。</p> <p>日本の民主主義のあり方として三権分立がある。政治性のある立法権・行政権を監視できるのは司法権であるが、日本の防衛対策をめぐって司法が明確に違憲と判断したのは、日米安保条約と、米軍の駐留については砂川事件地裁判決、自衛隊については長沼ナイキ基地訴訟地裁判決のみである。しかし、自衛隊についての訴訟は長沼ナイキ基地訴訟以外に恵庭事件、百里基地訴訟などがあるが、地方高裁や最高裁では統治行為論によって違憲判決を避けている。統治行為論は、判決による混乱を避けるとの理由や、国民に選ばれている立法府の意向を重視する立場からの支持が厚い。だが統治行為論は、法の支配に反していたり、三権の癒着を招きかねない。</p> <p>全面的に統治行為論を支持できない限り、統治行為論は認められるべきではない。統治行為論が認められる理由で最も大きいのは、「高度な政治性を帯びた国事行為に対して、裁判所が判断を下すのは混乱を招くから」と言うものである。裁判所は、三権の中では最も民主主義から遠い機関といえる。逆に最も民主主義に馴染む機関は国会である。国会議員は国民が直接、選挙で選出するからである。そして、内閣の長である内閣総理大臣は、国会議員の中から選任される。さらに閣僚も一定数は議員から選出しなければならない。国会と内閣の関係が強いことがわかる。その、民主主義に馴染みのある内閣や国会による「高度な政治性を帯びた国事行為」に司法権は馴染まないとして、民主主義主義の決定に委ねる!というのは合理的な考え方であるのは間違いない。しかし、いま、民主主義・立憲主義が崩れそうになっている今、三権の監視の目を緩めては行けない。上のような理由も、言ってしまうと「逃げ」なのである。少し前まではそれで良かったかもしれないが、「今」を考えると統治行為論は認めるべきではない。違憲な憲法改正にストップをかけられるのは、やはり立場的司法権を持った裁判所がふさわしい。</p>	

<p>饗場先生</p>	<p>今の日本は民主主義と立憲主義が戦後最大の危機にある。だから、政治リテラシーを高め、この危機を感じ、選挙権を駆使して、危機を脱しなければならぬ。というのが授業で習ったことだったが、私は、本当に選挙に行くことで政権を交代させたり、この危機を脱することができるのか、疑問に思う。</p> <p>選挙に行かなければ政治に自分の意見を反映させることはできないが、たった一人の1票なんてそんなに意味を持たないではないかと思うから。私は出身が高知県でしたが、徳島県と「合区」になってから、選挙カーを見る機会が格段に減った。そのため、より自分が持つ1票というのが意味ないのではと感じるから。</p> <p>確かにみんなが、どうせ自分の1票なんか何の影響も与えられない、と思って選挙に行かなければ投票率はとても下がり、民主主義の意味をなさなくなってしまう。しかし、それでも選挙に私一人が行ったところで何も変わらない。今の日本は自民党が強いし、いくら公文書改ざんとか強行採決とかしていても、どうせ選挙の時はみんな忘れて、自民党に投票する。メディアが選挙前にはもっと今の政府がやっていることを詳しく伝えるべきだ。また、自民党以外の政権が弱すぎて、結局多党制がよく機能していない。それに、選挙は我々一般市民が政治に影響を与えられる場だとしても、選挙の時だけいいことを言っておいて、実際に当選すると、全然違う行動をしている。しかし、市民は政治に関心がないから気づかない。共謀罪や安法制のときあんなに市民が反対している映像だったり、専門家のコメントだったりテレビで流れ、多くの人が反対していたのに、結局法はできてしまった。すべての法案に国民投票をしようというわけではないが、我々が選挙以外で政治に介入できる場面がもう少しあってもいいのではないだろうか。例えば、世論調査で一定の割合の人が反対している法案に関しては国民投票だったり、もう一度国会で話し合うだったりすればよい。そうすれば、もう少し我々にも政治の関心が出てきて投票率も上がる。しかし、そもそも投票率はメディアや政策によって上げられるのではなく、教育と自分の意思で上げなければならないと思う。</p>	
<p>饗場先生</p>	<p>饗場先生の「政治リテラシー」の講義に関連づけて、我々市民の投票の意識についての問題提起がある。</p> <p>私は現代を生きる者であるから、明治や大正、昭和にどのような政治家がどのような政治を行ってきたのかは、はっきりとはわからない。しかし、国民の代表として政治を動かす訳だから、人並みではない「知識人」であることは考えられる。その政治家は私たちの「投票」によって選ばれ、政治を行なっている訳だが、どの時代にも政治家に対するバッシングらしきものが絶えずにあるのはなぜか、ということである。</p> <p>私たちが選んでいるのに、結局私たちが不満をぶつけている。このことが問題である。政治家は知識人と上記で述べたが、どれだけ知識があっても、「常識」は無いのではないかと疑わざるを得ないような不祥事、問題が多々ある。その人たちを選んでいるのは私たちが、信頼できないから辞退させ、また新たな指導者を選んで是非難を浴びせる。</p> <p>私が言いたいことは、非難することがいけないということではなく、いつまでも同じことの繰り返しをしているということである。</p> <p>この問題を扱う理由としては、2点挙げる。まず、日本の政治が前に進まないからである。いつまでも同じ問題の言い争いで進展する様子が見られない。何か動きがあったとすれば、不祥事の発覚であることが多い。政治が行き詰まりを見せている。</p> <p>もう一点は、我々の投票意識の改善・向上のためである。もちろん、良い政治家を選ぼうとしていることは皆が一致する。しかし、実際にこう言った問題が起こっている訳である。政治家を見る目がないと言ってしまうとそれまでだが、ここまで問題が山積みになると、政治家の建前の発言があまりに多いのではないかと考えざるを得ない。それに騙されているのである。</p> <p>政治のノウハウについての専門知識はないが、国民の思いや要望、日本がどういう方向に歩めばいいのか、これらを考えとして持つておくこと。そして、政治に対する関心とある程度の知識は最低限必要である。</p> <p>どうすればそのような繰り返しがなくなるのか、また常識ある政治家が動いてくれるのか。この二つを問題として提起する。</p>	

<p>饗場</p>	<p>情報リテラシーが必要であり、政治に関する関心・知識・行動力が重要なことは学んだが、具体的にどういった行動を起こせばよいのか。</p> <p>平和な世界を作るために自分たち市民の判断、行動がいかに大事か。恐ろしい戦争を二度と起こさないために、私たちは初等教育の頃から道徳教育や平和学習で過去の戦争を学んできた。そういった学びは我々日本国の戦争被害の悲惨さを伝え、ひどい目に合ったことからの視点で戦争を忘れてはならない、というメッセージを与えた。日本は戦争の被害者でもあるが、加害者でもある。戦争を本気でなくそうとするには、その戦争の実態を知ることが非常に大事であり、一部の観点からではなく、広い視野を持つことが必要なのである。戦争をしたい国家や政府は、戦争をしたくない国民をだまして、欺瞞性を持った行動に出る。私たち国民はそういった政府の悪い行動を見破らなければならない。そして選挙に参加して、民主主義を機能させ、立憲主義を堅持するべきなのだ。</p> <p>しかしここで選挙という行動例が出てきたが、他に実践できることとして具体的な行動はないのか。また、国家が取り締まる政治を国民が監視するには、メディアが重要な役割を果たすのだが、そのメディア自体も政府による抑圧で、萎縮しているのが現状である。そういった状況にあっては、正確な情報はどう取寄せればよいのか。政府の行動を疑う気持ちを持つのは大切なことであるが、見極めるための具体的な方法、行動は明らかではない。政府にだまされない賢明な市民となるには、政府に対抗する的確な行動とその実践力が必要である。</p> <p>これからの社会をつくる自分たちにとって、国家・政府に対する対応の仕方は重視すべき内容である。誰もが平和を望んでいるはずなのに、戦争は昔から今まで限りなく続いている。戦争を望む者が国家権力を握った時、その実状を知り、権力を抑えるためにはどうすればよいのか。国家・政府と市民間の関係を本来の民主主義の形でつなげるために必要な行動というのを知るべきだ。</p>	
<p>饗場先生、山口先生</p>	<p>私が先生方にパネルディスカッションしていただきたい話題は2つある。</p> <p>一つは、日本の政界現状のについて話し合っていたきたい。</p> <p>前回と前々回の授業で饗場先生から政治リテラシーの必要性についての講義をしていただいていた。それについて十分に理解できた。そこで得た知識や土台を頭に入れたうえで、現在の日本の政治の現状について先生方にパネルディスカッションをしていただきたい。そうすることで、今まで政治に関心のなかった学生も具体的に現状について想像しながら、自分に引き付けて考えることに繋がる。また、自分に引き寄せて考えることができれば、選挙に対する今までの見え方が変わる。選挙の見え方が変わることで、選挙に対する行動も変わる。そうすることで、投票率も上がるし意志を持った1票が増えるため、民主主義が今までよりも増す。</p> <p>よって、日本の政界の現状についてパネルディスカッションをしていただきたい。</p> <p>もう一つは、レポートや論文の文献の選ぶ際に気を付けていることをについてのパネルディスカッションをしていただきたい。</p> <p>山口先生の授業では、レポートの書き方について、たくさんのことを教えていただいた。そこで、レポートや論文のプロである先生方が、どのようにして、また、どういう点に気を付けて文献を選んでいるのかを教えていただきたい。そうすることで、私達学生のこれからの大学生活の学習面に生かすことができる。一人一人がそれを参考にすることができれば、徳島大学自体の学習の水準が上がる。徳島大学の水準が上がることで、徳島県への貢献できる度合いも上がっていく。</p> <p>以上のことから、先生方の文献の選び方のコツについて教えていただくことにはこのような利益があるため、それについて教えていただきたい。</p>	<p>文献の探し方については後期「課題発見ゼミナール」で実践的に学びましょう。(山口)</p>

<p>饗場先生</p>	<p>私は、そうすれば戦争をこの世からなくすことができるのか提起してみる。その問題を扱うことの必要性は、戦争を起こしても後に残るのは憎しみや虚無感といったものばかりであり、そういったものをなくす必要があるからだ。</p> <p>ここで、戦争について改めて考えてみる。戦争とは勝つことができれば多額の賠償金や敵国の領土を奪うことができ、自国の領土を拡大することができる。また、不平等な条約を結ぶこともでき、利益を得ることができる。しかし、そのようなメリットがある一方、デメリットも存在するのである。例えば、もし戦争に勝ったとしても、敵国の損壊が激しければ、日露戦争のように賠償金を払うことができないこともある。また、領土を拡大するということは、今までそこで生活をしてきた人の土地を強制的に奪うことになるため、革命がおき、人々が殺しあうといった悲惨な無限ループにつながってしまうのである。そのためにも、平和な世の中を築いていくことが必要であるのだ。しかし、私たちの暮らしの中でさえ、強盗や殺人、テロといった犯罪が起こっている。私たちがそのような犯罪を世の中からなくすことができない以上、戦争をこの世からなくすことは不可能なことであり、非現実的である。</p> <p>つまり、戦争をなくそうとするのではなく、戦争が起きるのを少しでも減らそうといった考え方のほうがより現実的である。戦争を減らすためには、民主主義と立憲主義を確立することが必要なのである。そうすることにより、国民の意思に反し憲法を勝手に改正するようなこともできなくなる。また、独裁的な政治を行うような政権を排除することもできるからである。国の内部から少しでも平和にしていくことで、国と国との対立を減らすことができそれが戦争を少しでも減らすことのきっかけにつながるのだ。</p>	
<p>饗場</p>	<p>民主主義と立憲主義を崩壊させないために、国民に政治リテラシーを持たせるためにはどうすべきであるかという問題。饗場さんの授業で日本は民主主義と立憲主義がある国で、悪い政府を檻に入れたりやめさせたり出来る。しかし、現在では、選挙の投票率が減少していたり国民投票も行わず新しい法案を可決したりで、民主主義と立憲主義が崩壊しようとしている。だから、政治リテラシーを持って政治に関心を持とう。という風に学んだ。しかし、政治リテラシーを持つ大切さは分かったても、大学生だけでなく中高年層の人にも政治リテラシーを持ってもらうにはどうすればいいのかがあまり分からなかった。なので、最終回のパネルディスカッションで討論してもらいたい。</p> <p>自分なりの見解としては、若い世代に政治リテラシーを持ってもらうために、饗場さんのような授業を高校や大学で積極的に行うことである。普通の文字やグラフだけのスライドの講演会ではなく、饗場さんのように残酷で生々しい写真や映像も使った講演会や授業を行うことで、インパクトを残すことが政治リテラシーに関心を持つ第一歩である。なぜ若い世代かというと、若い世代の投票率が低いことが大きな理由である。高齢者は、年金などの自分の生活に直接的ですぐに影響があるので、政治に関心があり投票に行く。高齢者は人口は多く、政治に関心があることもあり、高齢者の投票率が増加していく。すると、政治家も投票率が高い高齢者向けにアピールをする。若い世代の人たちは、自分に関係ないこととして選挙に行かない。という悪循環がおこっている。この悪循環を断つために、まずは若い世代に政治に関心を持たせる必要がある。だから、饗場さんのしたような授業でインパクトを残させ、自分たちの問題であることを教える必要がある。</p>	

<p>饗場</p>	<p>饗場先生の授業では、「悪い政府を変える=民主主義」であるが、これがいま危機で、低投票率やメディアが衰退していることが問題であると学習した。市民にとって、メディアが政治の判断材料である。メディアが衰退して機能しないと、市民の判断材料が乏しくなり、民主主義が機能しない。日本のメディアが衰退している理由として、政府による抑圧・懐柔や政府の抑圧を恐れ、メディア自らが萎縮していることを挙げた。メディアの機能が低下しているなかで選挙権を生かして悪い政府を変えなければならないと学習した。メディアによる報道の自由は、政府を交代させれば改善できるはずであるが、問題は悪い政府を変えることではないか。ここでいう「悪い政府を変える」とは、現在の首相の安倍首相を変えることを示しているのか、それとも、現在は自民党と公明党の連立政権であるがこの連立政権自体を政権交代させることを示しているのか。今年自民党の総裁選が行われるが、この総裁選で総裁が交代しても変化は起こらないのではないだろうか。政党とは、共通の政策を実現させるために集まっているため、首相を交代させても政策自体の変化が起こりにくい。そのため、私としては政権交代を目指す方が良いと思われる。しかし、政権交代を目指すとなると、メディアの衰退の原因もあるだろうが、政権が交代することは難しい。近年、野党の方では党が分かれたり、新党が立ち上がったたりなどしている。政党が次々と変化して細かくなっていけば、今の政権を持つ自民党と公明党の受け皿がなくなっていく。政党が連合を組んでいる所もあるが、それでも自民党と公明党の連立政権の大きさに至らない。首相の交代、政権の交代どちらにしても、このままでは変化の少ない結果になる。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私が取り上げたい話題は「若者の選挙権について」である。なぜなら、最近の政府は、公文書の改ざんや隠蔽、森友学園や加計学園の問題など、次々に問題が発覚しており、新聞やニュース、インターネットでも、「森友文書改ざん『公文書管理法の改正を』与野党から要望」(注1)といったようによく見る話題となっており、皆関心があるはずであるが、いざ選挙となると、選挙に行く割合が高いのは総務省の「衆議院議員総選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(注2)のグラフを見てみると、50歳代や60歳代の人たちである。2015年に法改正され、18歳以上の方が選挙権を持つようになり、選挙権を持つ若者が増えたはずであるのに、前の饗場先生の講義の中にあつたように、平成29年の選挙では、20歳代の投票率はワースト2位の低さである33.85%(注3)となっている。このままでは、政府はもっと問題が多発し、国民の不信感が募り、そして、若者の投票率がより低下していくだろう。そうならないために、18歳や19歳という当事者に含まれる私たちがどうすればいいのか、また投票率を高めるためには何が必要なのか気になるからである。</p> <p>(注1)毎日新聞、2018年3月23日21時41分(最終更新3月23日22時16分)、<a href="https://mainichi.jp/articles/20180324/k00/00m/010/155000c">https://mainichi.jp/articles/20180324/k00/00m/010/155000c</a></p> <p>(注2)、(注3)総務省、ニュース一覧&lt;投票制度・選挙制度・啓発その他&gt;、衆議院議員総選挙における年代別投票率の推移、<a href="http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/">http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/</a></p>	
<p>饗場</p>	<p>先日の講義では、2週に渡って政治リテラシーについて取り上げられた。饗場先生は日本の国家権力の濫用の最たるものであるアジア・太平洋戦争について解説され、国家は戦争をするために国民を騙そうとするので、国民は国家に騙されないように、政治リテラシーを身につけなければならないと力説された。</p> <p>しかし、残念ながら、日本の若者は政治リテラシーを身につけるために不可欠である政治への関心が高いとは言いがたい。例えば、総務省の統計資料によると、「国政選挙の年代別投票率は、平成29年10月に行われた第48回衆議院議員総選挙では、10歳代が40.49%、20歳代が33.85%、30歳代が44.75%となっています」(<a href="http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu">http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu</a> 2018年6月25日アクセス)とある。つまり、若年層の投票率は過半数を下回り、政治的無関心が広がっているのである。このまま放っておくと、政治リテラシーの欠けた社会人が多くなり、饗場先生が仰った「政府に騙される国民」が増えてしまうだろう。その上で「国民を騙そうとする政府」が現れると、本当に日本の民主主義が崩壊しかねない。この事態を予防するためには、政治的無関心が広まった原因と、政治的無関心を取り除き、若年層にも政治に関心を持たせるための対策が必要である。</p>	

	<p>だから、私は先生方に「なぜ日本の若者は、政治的関心が薄いのか」と「若者に政治的関心を持たせるにはどうすればいいのか」について議論していただきたい。私は先生方の議論の中から若者の政治的無関心の原因と、その対策を学ぶことを目標とする。</p>	
饗場	<p>私は饗場先生の講義を受け、「戦争犯罪の追及」についてのディスカッションを提起する。戦争が終了した後、特に先の大戦などでは、日本で戦争犯罪人を裁くための裁判が行われた。日本という国が不法に戦争を起こしたこと、大量虐殺や奴隷化など非人道的な行為を行ったことについて軍の関係者などが起訴され、処刑された。</p> <p>戦争犯罪について誰を追及するのは、難しい問題だ。国と国が軍事力を用いて争うという異常な空気の中で行われた犯罪は、通常の罪には当てはめられずに戦争犯罪として取り扱われる。兵士たちはたくさんの人を殺したが、そのすべての人を罪に問うのではなく、方針を決定・指揮したとされる上官や大臣を裁判の対象とした。</p> <p>ここで問いたいのは、戦争犯罪というものが通常の犯罪のようにきちんと裁くことのできるものなのか、できるのならどのような方法によってか、ということである。</p> <p>私は、戦争犯罪は容易に裁けるものではないと思う。行われた残虐で非道な行為について、「戦時中だったのだから仕方ない」と言いたいのではない。ただ、戦場にされただけで戦争に参加していないという場合がもしあるならばそれを除いて、戦争に関わったどの国にも被害と加害はあった。加害者の責任を問うならば、それは戦敗国と戦勝国のどちらも対象とならなければならない。それを公平に裁判し順当な刑を科すためには、公正な第三者による裁判が必要になる。</p> <p>犯した罪は裁かれるべきであり、被害者にはそれを求める権利があるが、それがその他の要素に影響を受けることはあってはならない。実際の罪の重さに応じた適当な罰を受けられるよう、戦争犯罪についての裁判にも考慮が必要だ。</p>	
饗場	<p>メディアによる情報には偏りがあるのではないだろうか。また、情報は必ずしも正しいといえないのではないか。</p> <p>最近のメディアによる情報には誤っているものがあったり、新聞や雑誌は書く人の主観的なものも含まれてしまい、客観的に考えづらくなったりする。また、政府による抑圧や懐柔により、政府に有利な情報が多くなり、真実が見えなくなってしまうのは正しい判断のしようがなくなってしまう。政治リテラシーをもつことは重要だが、知る手段に偏りがあると結局何も変わらなくなる。</p> <p>新聞や雑誌などの記事も人間が書くので主観の入っており、偏ったものになっている。メディアによる情報によって今の政治を知ることが多い中で、主観が入った情報を頼りにしてしまっただけではいけないので、なるべく客観的なことを伝えるようにする。国民が正しい判断をできるようにするためにも政治関連の情報はしっかり保管しておかなければならない。</p> <p>産経ニュースの記事を読んだのだが、もちろん客観的なものである、結果としての情報は書かれていたが、そのあとに記者による推量や感想が書かれていたからメディアによる情報には偏りがあるといえる。また、最近では公文書の改ざんなどにより本当のことがわからなくなっている。国についてもっと話し合いを行わなければならないはずであるのに、政府による失態が多くなり、本当に討論しなければならないことがどんどん遅れているため、政治に関するすべての情報はすぐに保管するのがよい。</p>	

<p>饗場</p>	<p>饗場先生のような講義をこれからたくさんの人が受ければ、若い人達が今の政治に多少は興味を持ち、危機感を感じることは出来るだろう。しかし、それを行動に移すそうという意思を持たせることは出来ない。それをどうするべきかという問題提起をしたい。</p> <p>私は、若者がこういう授業を受けてさえ行動に移さないだろうという意見の理由は2つある。</p> <p>1つは、今の若者があまりにも政治と関わらなくなり、政治から遠く離れて生活しているため、政治のことにに関して周りの人と話すということをしていないことだ。政治の話はそう簡単なものではないから、言い争いになりがちである。わざわざ言い争いになるような会話をすることは、事なかれ主義の日本人は望まないだろう。多少政治について知識を得ても、周りが全く興味を持たないし、政治が自分たちの生活に関わっているとも感じにくいいため、動こうとしないのだ。</p> <p>もう1つは、自分一人が変わったとしても国は動かないと感ずることだ。これも若者世代の政治への関心のなさのせいである。また、ニュースなどで政治家が殴り合うシーンや、森友学園のニュースがたくさん流れるせいで政治家を信用出来なくなり、半ば諦めているからである。</p> <p>日本という国が危険にさらされないように、若者に政治について関心を持ってもらうだけでなく、政治を身近なものと感じ、自分たちの生活は政治次第で大きく変わるということを教え、行動に移すくらい危機感を覚えさせるために、どうしたらいいのか問題提起する。</p>	
<p>饗場先生</p>	<p>饗場先生の講義に関連し、「女性がより社会に進出できるようにするにはどうすればよいかについて」をパネルディスカッションしていただきたいです。女性として、大学を卒業した後どのように社会で活躍すればいいか先生の意見を聞いてみたいと思ひ、この問題を提起しました。私は今まで、学校やニュースで女性が男性と平等な環境の下で働くことができていないということをとたくさん学んできました。しかし実際、男女平等が大切だという考え方は広まってきていますが、大きく改革などはなされていません。その理由は、私たち一人ひとりの心の中に男女不平等の考え方が根付いてしまっているからです。原因は、社会の男女不平等の考え方を助長している制度であったり、性別による分担の認識が社会的に存在していることなどが挙げられます。また、それらを改善していく立場の人のほとんどが男性であることが一番の問題です。私たちがそうした世の中を当然のものとして生活すれば、まさにゆでガエルようになってしまうことが事態として危惧されます。</p> <p>饗場先生の講義で、政治リテラシーを持つことについて学びましたが、それは政治だけではなく男女の社会問題にも応用することが可能です。そういった考えのもとで「女性がより社会に進出できるようにするにはどうすればよいかについて」をパネルディスカッションのテーマとして取り上げてくださると幸いです。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私が問題にするのは「部分だけをとらえて全体を見失っている」ことである。これが問題なことは、部分的なことでもそれが最適だとしても全体を通して捉えると全く違うことが数多くあるにも関わらず、それを部分だけを見て正しければいかにも正解だと考える人が多い。例えば、レポートを作る際に自分の主張を述べてその主張の賛成意見の引用をしてレポートを作る人がいる。これは相手の意見を全く考えないものである。これではよいレポートだとは言えない。大切なことは全体の構成を決めておくこと。そして、賛成意見だけでなく反対意見を取り入れることである。このようにこの問題は日常にありふれたものとなっている。政治の面から検証する。政治は多大な権力がある。この権力が悪用されたりすると、私達の命が危ぶまれる可能性がある。これを防ぐために私たちが持つものとして授業で挙げられていた「政治リテラシー」を持つことである。政治リテラシーを最大限に生かすのに「部分だけでなく全体をとらえる」が必要である。理由は私たちが政治について知る方法は新聞やインターネットである。このことは情報リテラシーにも当てはまることであるが、偽りの情報に騙されないようにすることも全体をとらえることを意識しておけば問題はない。</p> <p>「全体をとらえる」を日常の中でも意識しておけばちょっとした失敗も防ぐことができ、いい方向につながる。</p>	

<p>饗場</p>	<p>日本における成人年齢が18歳に引き下げられたことによって起こる問題について。自分自身19歳であり、成人というものを意識するようになってきた。その中で日本でも成人年齢が18に引き下げられるということを知り、どんな問題が生じるのか色々自分でも考えてみた。まずはじめに思いつくのは酒とタバコの問題だ。成人年齢が引き下げられても酒とタバコは20歳からというのは変わらないらしい。私は酒とタバコもそのまま18歳に引き下げてもいいと思う。高校卒業して働く社会人の人たちにとってお酒の付き合いというのも必要ではないだろうか。また、大学においても20以上の人がほとんどをしめている中で、酒やタバコに関わらず生活して行くには無理があると思うからだ。だが、ここで1番問題になるのが18歳の高校生である。生徒と学生の区別はしっかりしなくてはならない。ここで、私が提案するのは高校を卒業する年の4月から酒とタバコをオクケーにすれば高校3年生の飲酒喫煙は防げると思う。このように、成人年齢を引き下げることによって今までとは変わってくる可能性がある。その変わったことに対して議論し、ルールを決めて行く必要がある。そして、ルールを決めていくにあたって国会の大人たちだけが考えるのではなく、成人に近い私達もこの問題について考える必要があると感じた。</p>	
<p>饗場</p>	<p>戦争を防ぐために、政府にだまされない賢明な市民として政治リテラシーを高めることが大事であるということであったが、実際に大多数の市民がそうなることは難しい。これからの日本にとって最も重要なのは政治教育であり、「政治リテラシー」を若い世代に教えることが大切である。しかし、若い世代にどうにか政治に興味を持ってもらおうと活動をしていることの効果はあまり出ていない。選挙権も18歳まで引き下げられたが、選挙権を得たその年は選挙に行ったが、19歳のときは行かなかった人が多い。これは若い世代は「政治には期待していない。関心を持とうが、投票に行こうが、結局何も変わらないから」と思っている人がほとんどだからである。学校の授業の中で1.2回だけ政治教育をする場を設けた、というだけではそのときは政治について考えたり意見交換をしたりするが、一旦授業が終わってしまえば政治について考えたり友達と話したりすることはない。結局、「今は戦争もないし平和に暮らしているのだから」という結末に終わってしまう。日常的に政治について考える機会を多くとり入れ、学校であれば授業で定期的に政治教育を行い、家庭であれば親が子どもにも政治について話をしたりお互いに意見を出し合ったりし、わたしたちの生活の中にもっと政治を浸透させていかなければならない。</p>	
<p>饗場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙における低投票率の改善方法。</li> <li>・民主主義を維持するために選挙をすることは欠かせないが、現在、国民の、とりわけ若年層の低投票率が問題になっている。でも国民一人が持っているのは一票で、一人が頑張っただけでどうにかなる問題ではないから。</li> <li>・国も投票場所をショッピングモールに設置したり、改善しようと努力しているのはわかるが、低投票率の根本的な問題はそこにはない。票を入れたい政党や政治家がいないということや、自分一人のたったの一票なら入れても入れなくても同じだと感じてしまうことにある。支持したい政党や政治家がいないという問題は、若者の政治に対する関心がないということが大きく関係しているので、すべての政党がどんな政策や理念で活動しているのかそのメリットとデメリットは何なのかを学校で教える。その際に、自分一人のたったの一票が入れても入れなくても同じではなく、それらがつもりに積もっておおきな大量票になっていることを教える。</li> <li>・政治について関心があっても、どうしても優先順位が高いものからするので、つまり課題やゲームなど自分に差し迫っていることがどうしても優先されてしまうので、暇な時間に見ようとなることは少ない。だから、学校などで講義を受けたり、強制的に知る機会がないとなかなか触れられないから。</li> </ul>	



<p>饗場先生</p>	<p>〈問題〉 ネットや SNS 上での政治討論は有益ですか？</p> <p>〈この問題を扱う理由〉 若者の政治離れが問題となっている一方で、ネットや SNS で「パヨク」、「ネトウヨ」等といった言葉が生まれ広まっているように、誤った政治論を持った若者が増えているから。</p> <p>〈見解〉 ネットや SNS 上での政治討論は危険が大きく、あまり有益でない。</p> <p>〈根拠〉 政治についての意見交流をする場としてネットや SNS は利用されることがある。これ自体は良いことだが、その反面、根拠のない情報が真実のように扱われ、攻撃的な論調が広まり、いわれない誹謗中傷が横行している。更に問題なのがネットや SNS は情報操作がしやすい為、多数派の意見や、支持を受けている意見というのを創りやすい。それに加え、近年情報のソースを確認せず、安易に嘘の情報を信じる人が増加している。(最近だと熊本地震でライオンが脱走したという嘘が真実のように扱われ、SNS 上で拡散されて大問題になったことがその例として挙げられる。)以上を踏まえると、ネットや SNS 上での政治討論は正常に機能することもあるが、危険が大きい為、あまり有益でないと言える。</p>	
<p>饗場</p>	<p>戦争が起こってから長い時間が経ち、私たち現代人にとってかけ離れたものと考えてしまっている部分があります。しかし、北朝鮮との国家間の緊張があったり、IS の問題があったり、決して戦争がかけ離れたものではありません。また、森友・加計問題のように、国民の知らないところで不正が起こっていたりして、虐殺ほどひどいレベルには達していないけれど、国家権力の濫用が国内で起こっています。講義を聞いて、こういったことを改めて考えました。それによって政治リテラシーの重要さをひしひしと感じたので、パネルディスカッションでさらに深めた話を聞きたいし、それが未成年ながら有権者として認められている私たちが考えなければいけないことだからです。</p> <p>若者の投票率が低くなっています。選挙に行かないのに、政治問題が起こって文句を言っているだけの国民が増えてはいけません。信頼できるはずである公的機関に、統計を捏造したり、情報の隠蔽を行ったりされると、正しい情報の出所がなくなります。それが行われているということは、私たち国民がそれを許容し、それを行える状況にしているのだという意識を持たなければいけないのです。</p> <p>政治リテラシーを高めるための方法や、現代の日本の政治の問題点についても詳しく触れていただきたいです。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私たち日本国民のほとんどが、戦争と自然災害による苦難を、同じように考えていることが問題である。</p> <p>なぜその問題を扱うことが必要なのかというと、「人災」である戦争は、「天災」である自然災害とは違って避けようがあるはずである。しかし、実態は耐えるばかりで避けようとしていないから何度も起こるのだ。災害が起きる原因の一つに、私たち国民に対しての、政府・国家の欺瞞性がある。日本は近年、私たちが気づかないうちに、政府・国家が私たち国民を騙して戦争を始めようとするかもしれない状況になりつつあるからだ。例えば、森友・加計問題にみる「権力の私物化」や、政治家・役人が平気でウソを言い、文書や情報を隠すなどといった、国民を騙している問題が確かにある。こういった強大国家権力性悪観を持った上で、私たち市民には、民主主義や立憲主義で、「悪い政府は変える」「政府の行動を縛る」といった方策がある。にもかかわらず、ほとんどの人がこういった問題をあまり知らない。こういう状態が続けば、昔起こった戦争や南京事件のように、国民が騙されて戦争が起こるかもしれない。したがって、こういったことがあれば再び日本も戦争をするようになる可能性があるから、饗場先生の講義に関連した問題を扱うことが必要であると考えている。</p>	

饗場	<p>パネルディスカッション形式で多くの先生が講義をしてくださったが、私は饗場先生の講義に問題提起したい。確かに政治リテラシーを身につけ、民主主義を通して自分たちで悪い政府を変えていかなければ、そこから戦争といった最悪な事態も招くことがあるとよく理解することができた。しかし、政治についてよく学び知識を身につけたところで選挙に行くなどの実行に移さなければ何の意味もないのである。実際今の政府に影響力を与えている多くの方は年配の方々である。若者はたった一人の票なんて誤差に過ぎないということで政治参加をしない傾向にある。政治についてさほど興味もなければ参加する気もない若者に知識だけ詰め込んだところで宝の持ち腐れであり、仮にこのような講義の形をとったとしてもその講義が終わり時間が経てばすぐに忘れてしまう。以上のことからまずは、政治についての知識を詰め込むのではなく、いかに興味を持たせることが出来るのが大切になってくるのではないだろうか。日本にある政党の名前を全て言うことが出来る大学生は、はたしてどれほどいるだろうか？まずは、そういった小さなことからクイズ形式などで学生の興味を引くような講義をやれば自然と政治リテラシーはついてくるものだとして提起したい。</p>	
饗場	<p>6月12日に行われた米朝首脳会談後のトランプ大統領の会見において、トランプ氏は北朝鮮が非核化を受け入れた後の経済支援を近隣の日本・韓国・中国が支援するだろうと発言したことについて、日本はどういった対応をすべきなのかという問題。</p> <p>日本は平壤宣言において、拉致問題が解決すれば経済支援をするとしているが、拉致問題は北朝鮮側ではすでに解決済みとして意見が食い違っている。</p> <p>昨年、北朝鮮は数多くの弾道ミサイルを発射しており、日本でも危険だとして大変問題となり、戦争への発展も危惧されていた。</p> <p>非核化受け入れ後の経済支援については様々な意見が出ているが、中には「支援したお金で北朝鮮がミサイルを開発するという可能性も捨てきれない」というものもある私もその意見に賛成している。未だ北朝鮮との間で拉致問題も解決していない中での経済支援は慎重に検討されるべきだ。</p> <p>饗場先生の授業では、戦争を避け平和に暮らすためにはということを経験したが、日本国民が政府にだまされない賢明さを持ち、民主主義と立憲主義を堅持したところで、他国が戦争を仕掛けてくればどうしようもない。</p> <p>このような状況下で、日本はどのような対応をとるべきか、先生方の意見をお聞きしたい。</p>	
饗場	<p>インターネット上で、何が問題の根底にあるのかを考えずに発言する人が多くおり、それを深く考えずにまにうけてしまう人が多くいる。日本では、政治の話をするというのがタブーとなっているので、日常の中で話し合われることも、学校の授業で現在の日本について教えられることはほとんどない。日本を担っていく若者が自国について、自国の政治について知らないというのは、問題だ。</p> <p>18歳に成人年齢が引き下げられるので、政治リテラシーや社会を批判的に考える能力を身につけなければならないので、この問題を扱う必要がある。</p> <p>これは、インターネットでは簡単に情報を発信でき、それを見、信用してしまう人間が多くいるためだ。インターネット上で他人が発する意見の根拠や、誰がその意見を発しているのかをあまり気にしていない人がいる。過激な意見や有名人の意見だから、とその意見が絶対に正しいのだと信じてしまう若者は多くいる。18歳で成人と認められるのであれば、学校の授業で、現在のような授業体系でなく、もっと実際の日本について批判的に考えられる力を身につけておかなければならない。いつでも、物事を鵜呑みにせず、何が問題の根底にあるのかを身につける力を身につけなければならない。</p>	

<p>饗場</p>	<p>これまでの総合科学入門講座はとても興味深く、深く考えるべきことばかりだった。その中でも、特に政治リテラシーについて考えるべきである。近年、選挙権を持つ年齢も18歳に引き下げられ、政治と密接に関わる年齢層が広がった。そのため、今までより早くしっかりした政治リテラシーを持たなければいけなくなった。だが、授業でも習った通り、急に「憲法を変えるべきだと思いますか。」と聞かれてもいまいちピンとこないし、危険も感じない。私は高校生の時に選挙権を持ち、「これからはもっと意識して日本の政治を知ろうとしなければいけない。」と思ったが、ニュースなどで使われる政治に関する言葉は難しく、その法案が可決されたから私たちの生活にどのような影響を及ぼすか分からない。その様な状態では政治に参加しようという気持ちも無くなりかねないし、間違っただけの判断をしてしまう可能性もある。</p> <p>このことから、どのくらいの時期から政治リテラシーを持つための教育をすべきなのかを知りたい。</p> <p>あまりにも幼いときから始めてしまうと、難しすぎて政治が嫌いになりかねないので、本格的に社会の勉強をし始める中学三年生から高校生の間に教育すべきである。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私が提起する問題は「政治リテラシーを高めようとしている日本国民を大多数にするにはどうすればよいか」ということである。</p> <p>なぜこの問題にしたのかと言うと、この授業を受けている私たちだけが政治リテラシーを高めても意味がないからだ。世界大戦としては2度戦争が起こり、日本国内でもはるか昔から武器を使った戦いが起こってきた。すべての戦いを合わせたら犠牲者は数え切れないほどいるだろう。人間同士で衝突したところで、誰も勝者とはなれない、何も生まれないということは分かっているはずなのに、また繰り返される。今回と前回の授業からも分かる通り、民主主義の国だからといって国民が政治に積極的に参加するかといったらそうではない。日本全体の問題は、直接自分への影響が感じられず、自分の現状だけ見て満足して政治に関心を持たなくなるのだ。選挙権があっても投票に行く気がない国民が増え続けるのであれば、いくら一部の人が政治について勉強し、投票に行こうとも国や政府が暴走し結果として独裁にもなりかねない。</p> <p>より現実的に政治に関心を持つような対策を考えることで、私たちは勿論、国民全体の政治リテラシーを高めることが出来るだろう。</p>	
<p>饗場</p>	<p>提起する問題:なぜ政治的な話題は避けたほうが無難だという意識が生まれたのか</p> <p>饗場先生の講義の中で「政治と宗教にはかかわらないほうが無難だと思っていないか」という問いかけがあった。講義を通して、政治リテラシーを持つことの重要性は理解したが、問いかけの通り、関わらないほうが無難だという意識を持っていた。他国と比較して、日本人は政治の話をしていない、と語られることも多い。講義を受け、個人の意識や行動が変わることも重要だが、そのうえで周囲に、政治リテラシーを持つことの重要性を拡散する、政治の話をする必要があると感じた。</p> <p>政治に対する関心の低さは、政治にはかかわらないほうが無難という意識の一つの原因である。特に若者では、若者の投票率が低いために、若者に向けた政策・取り組みを掲げる政党、候補者が現れず、そのために、さらに若者の政治への関心がなくなる、という循環が生じている面もある。関心が低い物事について語ることは、避けようとするものである。しかし、若者だけでなく、全世代の投票率が低下傾向にある。</p> <p>政治の話は避けたほうが無難という意識が生じている背景は何だと考えているか聞きたい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>今の日本には確かに政治リテラシーを向上させる必要がある。しかし、そのためにどうすればよいか、どのような手段をとるべきなのか、なにも理解していない。今はインターネットの普及でどこでも政治に関する情報を受け取ることができる。Twitter、Facebookなど情報を得るものも様々にある。しかしその情報は政治とは全く無縁の人が断片的な情報だけを見て個人的な思考を羅列しただけの文のほうが多い。さらには、政治と関係する人、深く関わっている人が自らの感情に任せて批判を書き連ねたものだったりもする。メディアでさえ派閥だのなんだのと言い支持するところの情報は良いものを流し、支持しないところは流さない、ひどい場合は根も葉もないことをあたかも本当のことに流す。この状態を見て政治リテラシーと言われても手遅れに感じてしまう。しかしそれを手遅れにしないために考えなければならない。何か対策を考えないといつか「政治」の名のもと</p>	

	に自らを支持しないものを武力をもって弾圧するような体制が出来上がってしまう。そうなればおしまいだ。そうならないために、みんなで政治というものの在り方を今一度考え直すべきだ。	
饗場	<p>戦争を避けるための騙されない市民、賢明な市民とは具体的にどのような市民か。</p> <p>前回の授業で、戦争を避けるためには、実態を知ること、実態における文脈と大局を見失わないこと、戦争の原因である政府や国家は市民を騙すということ、それに騙されない賢明な市民になることが大切だと学んだ。</p> <p>被害と加害の両面に目を向けて実態を知ることが大切である事は良くわかる。また、政府や国家が私たち市民に対していつも正しく正直に政治を行うとは限らない事もわかった。</p> <p>ここで、それらに騙されない賢明な市民とはなんなのか、具体的に知ることが必要である。ただ漠然と賢明な市民と言ってしまっただけでは意味が無い。具体的にどのような市民になるべきか、理想像を掲げておけば、誰しもうかがい賢明な市民をめざせる。私なりの見解は、賢明な市民とは政治について正しい知識を持ち、自分で判断ができる市民になるという事だ。前々回から習っている政治リテラシーを持つ事ももちろん必要である。騙されないという事は、言い換えれば自分のもつ正しい知識を信じ貫く事だ。つまり賢明な市民とは具体的に言えば正しい知識と判断力のある市民の事である。</p>	
饗場先生	<p>先生は講義の中で、国家が権力を使い国民を戦争に導いてしまう前に、私たち国民は行動をするべきだと仰っていましたが、本当に国民は行動を取ることができると思いますか？</p> <p>なぜこのことを扱うことが必要かと言いますと、日本が今この危機にあると教授が講義の中で説明してくれたからです。</p> <p>自分なりの見解としては、国家の権力が強大な場合国民は政府に対して行動を取ったことにより国民は罰せられることを恐れて、国民は行動を取れないと思います。政府を正すために反抗し罰せられた人がいるということ、歴史の授業で習った人たちは尚更そういう思いが強いです。さらに、戦争に導いてしまうほどの権力の強大さを持っている政府に反抗をしても、国民の意見は反映されないと思い行動には移せないと思います。以上のことから私たち国民は政府に対して行動は移せないです。根拠としては、国民の頭の中には政府の考えに対して反対をするようなことはしてはいけないという考えが、少なからずあります。その考えが、行動に移そうという考えよりも強く思うことにより、行動はできないと思うからです。</p>	
饗場先生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような問題なのか</li> </ul> <p>義務教育期間に、学生が本当に真剣に、戦争や政治リテラシーについて考えるための効果的な主権者教育を行うためには、どう工夫すればよieldろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜその問題を扱うことが必要なのか</li> </ul> <p>近年、若年層の投票率の低下が問題になっている。その原因は「投票する余裕がない」、「政治に関心がない」といったものだが、前回の饗場先生の講義を通して政治への無関心や知識の無さが重大な問題につながるとわかった。この問題を扱う必要があると考えたのは、政治に対する無関心の根本には、主に主権者教育の問題があると考えたからだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの見解とその根拠</li> </ul> <p>小学生のころから主権者について、また戦争について詳しく教えるのは、理解してもらうことがなかなか難しいと考える。だから専門の方の話を聴くのも大事だが、受け身で聴くだけでなく自ら調べて理解していくことが最も理解しやすいのではないかと考える。調べ学習の際、親や近隣の人などにも自ら訊いて教えてもらうことで、打ち解けた、また大人もこの問題について再確認するような学習になる。</p>	

<p>饗場</p>	<p>饗場先生の講義で、私たちは民主主義と立憲主義の仕組みを崩壊させないように、「政治に対する関心を持ち、知識を得て、行動する能力」を意味する、「政治リテラシー」を持たなければならないと学んだ。しかし現在、若者の選挙に対する興味関心の低下や低投票率などが問題になっている。そこで、「若者の『政治リテラシー』を高めるために具体的にどのような取り組みをすればよいか」というテーマで、パネルディスカッションをしていただきたい。先生方の立場からの意見を聞き、実際に自分も「政治リテラシー」を高めるために活かしていきたいので、問題提起した。</p> <p>実際に若者の立場にあたり、これからの日本の将来を担うことになる私たちが、「政治リテラシー」をきちんと持っていなければ、現在日本が抱えている民主主義と立憲主義の危機が、より崩壊すると考えられる。だから、若者の「政治リテラシー」を高めることは、これからの日本の社会を救うと言っても過言ではない。また、若者の「政治リテラシー」を高めるためには、インターネットやSNSを十分に活用すべきである。</p>	
<p>饗場</p>	<p>饗場先生は講義の中で、私達は政治リテラシーを身につけることでゆで蛙の危機から抜け出せると言っていたが、本当にそうだろうか。確かに、講義の中で述べられた通り、様々な問題が世の中には蔓延っている。共謀罪の可決や改憲の動きがあること、メディアの衰退などである。このまま放っておくと事態は悪化の一途を辿ることは自明であり、諸問題の解決が求められている。しかし、私達が政治リテラシーを身につけた所でこれらの問題が完全に解決される訳ではないだろう。私達が政治や戦争などの正しい知識を得て、正しい判断をしても、せいぜい選挙へ行くことぐらいでしか政治には貢献出来ない。そもそも国民の代表を決めることが選挙であるのに、その代表が文書の改竄や隠蔽をしてしまうから、代表を選ぶにも選択しづらい現状がある。もちろん、自分自らが選挙に立候補することも可能ではあるが、費用等の面でもかなり難しいことである。以上のことから言えることは、政治リテラシーを身につけることでゆで蛙の危機から抜け出せると言うのは、少し無理があるのではないだろうかということだ。</p>	
<p>饗場</p>	<p>政治リテラシーについての授業をしていただき、民主主義や立憲主義を堅持していかなければならないと教わったが、では具体的にどのようにして堅持していけばよいのだろうか。</p> <p>この問題提起をする理由は、悪い政府を交代させたり戦争を回避したりするなら、市民が賢明になり、民主主義や立憲主義を堅持しなければならないが、それを漠然と持っているだけでは、何も変わらず同じような過ちを繰り返してしまうからである。そのために、私たち市民は具体的にどのようにしていけばならないのかを知るべきである。</p> <p>これに対する私の見解は、国を引っ張っていく者を決めるときに国民全員で確固たる意識を持つようにしなければならないということである。選挙における投票や、代表者を決定する際には、国民が民主主義と立憲主義をしっかりと理解し、政府を監視する方針を掲げるべきであり、困難もあるかもしれないが、それをその度に広く報じるとよい。そうすれば、国民は政府や国家を好き勝手にさせてはいけないという危機感を持ち、目を光らせておくことができる。</p>	
<p>饗場</p>	<p>パネルディスカッションへの問題提起</p> <p>前回、前々回の授業で私たちが人間らしく生き、戦争を起こさないようにするには国民が賢明さを持ち民主主義と立憲主義を堅持しなければならないと学んだ。国民が政治リテラシーを持ち危機に気づくためには情報が必要だ。意見や批判をするにしても基本的な事実を知らなければ始まらないし論理的な話し合いもできない。しかし授業でも聞いたように現在公文書の改ざんやメディアの衰退など民主主義と立憲主義を揺るがす自体が多々起きている。情報を集めてもそれ自体が間違いだったり、偏った視点のものだったら正しい判断をすることができない。また公文書などの資料は後の検討でも強い影響力を持つのでその管理はとても重要だ。</p> <p>政府の関わることに国民は直接加わることはできないが複数の新聞やニュースを見たり選挙の時期に立候補者の発言により注意を向けるなど政治に目を向ける方法はある。</p> <p>そこで情報の問題に対してどのような対策がとられているか、また国民は具体的にどう行動すべきかを聞かせてほしい。</p>	

<p>饗場</p>	<p>饗場先生への問題提起 私が問題提起するのは、若者の政治参加についてである。2016年から18歳でも選挙の投票に行けるようになり、人数としてはより多くの若者の意見が取り入れられるようになったのだが、投票率はさほど変わっていないのではないだろうか。民主主義を成立させるためには、国民の政治参加が不可欠である。選挙権の年齢を引き下げて間口を広げても、その新たに参加してくる若者たちに政治への興味がなければ意味がない。 そこで、若者にはもっと政治を知る機会を作るべきである。高校生のとき、社会科の授業で選挙についての話をしていただいたことがあり、それもある種の政治を知る機会ではあった。しかし、学校などの教育現場では政治的中立が求められており、あまり政治に踏み込んだ話をするにはできない。それによって、いまいち政治に対する興味が持てず、結果投票には行かなくなるのだ。学校の授業以外でも学校外でもっと政治を知る機会(各政党の主張や地元選挙区の議員の意見なども教えてくれるような)があるとよい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>今日の日本の政府が公文書を改ざんしたり、強行採決を連発したりしている問題について。饗場先生の授業で、民主主義で悪い政府は変えることができると言っていたが、現在の日本の政府は平気で公文書を改ざんし、嘘をつくので、悪い政府を変えようとする選挙も裏で意図的に仕組まれたり、結果を改ざんされる可能性もある。このままでは、悪い政府を根本から変えることはできず、国民の意思とは違うことが強行採決され、最悪の結果、戦争をする方向に走ってってしまうのではないかと思うから。現在の日本政府を変えるには、国連など他国の日本政府より上の立場の人や機関にこの問題を報告し、日本政府に警告をするように言ったり、監視する人や機関を作ればいいのか。その根拠として、誰しも(日本政府)自分が国のトップだと思えば好きなことができるし、自分に都合の悪いことは好きなようにできる。だから、もっと上の立場の人や機関を作り、監視する役として置くと抑止になり、好きなことをするのをやめさせることができるのではないかと考える。</p>	
<p>饗場</p>	<p>日本の政治が危機的状況にあり、今の状況を脱し自分の未来を守るには、政治リテラシーを身につけなければいけないことは分かった。そして、今のメディアは政府による抑圧や懐柔、メディア自らの萎縮があることも分かった。また、最近のマスメディアは発言の部分部分を切り取って違う意味に解釈させたり、テロップも誤解を招くようなものを出したりしていた。では、その場合どこの情報や報道を信用すべきなのか? SNS やインターネットでは誰でも書き込める時代であるので信憑性はうすい。政治リテラシーを身につけるためには正しい情報を得る必要がある。SNS やインターネットの情報に比べて新聞やテレビ・ラジオの報道のほうが確かに信憑性はあるだろう。だが逆に、上記の様にメディアが誤解を生むような報道をした際、SNS でフルバージョンの演説や答弁が流れてきて、やっと理解するというケースもある。自分で知識を得るのにずっと国会中継を見るわけにもいかない。政治リテラシーの前に情報リテラシーを身につけなければならない。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私は、饗場先生の講義に関することを題材としていただきたい。講義の中で、民主主義は現在危険な状況であり、その一例として、低投票率が挙げられた。そこで、選挙権が18歳から与えられるようになったことに関しての問題を提起する。18歳から選挙権が与えられ、選挙に参加できる人数は増えたのにもかかわらず、低投票率が続いているのが現状だ。これは、政治への無関心、無知が原因だ。また、唯一、政治について知ることができる場であるメディアも衰退している。これでは、一向に投票率が上がることはない。投票率を上げるためには、また制度を変えなければならない。私は学校と連携する必要があると考える。学校自身が投票率を上げる工夫をすれば、もっと若者は選挙に参加するようになる。学校と連携することで、低投票率の問題が解決できると考える。このように、18歳から与えられた選挙権が活かされていないことを題材とした対談を行なって欲しい。若者が政治に対して興味を持つようなテーマのディスカッションを行なって欲しい。</p>	

饗場	<p>今回取り上げる問題提起とは「民主主義が揺らぎつつあるということである」</p> <p>先日、総合科学入門講座の民主主義についての講義の中で日本の民主主義が揺らいでいるということ学んだ。戦争が起こるのを未然に防ぐことができるのが民主主義だというのがそれは現実的には不可能である。なぜならば、民主主義とは哲学の授業で山口先生がおっしゃっていたように国民に神のごとく立派な人間になってもらうようなものであるからだ。つまり、国民一人一人が賢くあってこそ、民主主義は完全な形となるのだ。戦争を起こすためには国民の支持を得る必要がある。政府は国民を騙そうとし、国民は騙されることで戦争を支持するようになってしまい、戦争は起きてしまうのである。</p> <p>政治リテラシーを持つことで得られることは政治的に最悪な事態、例えばナチスによるホロコーストを察知して逃げるができるだけではないだろうか今回のパネルディスカッションでは現実的な戦争の解決、対処手段を論じていただきたい。</p>	
饗場先生	<p>国家は市民が作り上げたものであるはずなのに市民は国家を前に脆弱であるのはどうしてか。</p> <p>国家は政治を行い、社会における利害の調節・解決をする役割を果たすために国家権力を行使する。しかしその国家権力もまた国民が作り上げ、選ばれた国民によって行使されるものである。市民は国家権力が乱用されぬよう憲法によって国家の行動を縛る権利があるが、現代の社会において十分に機能しているとは断言できない。議員による不祥事の報道が政治の中心となっている事柄以上に注目され、連日報道が続くといったことが当然となっている。この状況から脱却するためにはメディアが国家の動向に即した報道に重点を置き、国民が政治に対する関心が高まるような報道を行うべきである。市民もまた政治リテラシーを持ち国家の活動に注目して自分たちが望む国を国民全体で作るためにメディアを通じて意見を発信すべきである。よって国家と市民の権力の差を市民はメディアを味方につけることで縮めていく必要があるのだ。</p>	
饗場	<p>前回の授業で、最近の若者は戦争の被害は学ぶが、加害は学ばないと聞いた。先生が挙げた日本軍が犯した事件の例を見ても、確かにほとんど知らない事件ばかりだった。なぜ、加害面を知る事が戦争を避けることに必要なのに、今の時代は教えないのか。もっと、日本が犯してしまった加害を教科書に載せ、教え、子供にも現実を教えるべきだ。政府に騙されないように性質理解をする事が大事だとおっしゃっていたが、性質理解するためには、まず、本当にあった日本の歴史を隠さずに教科書に載せて、戦争の被害だけでなく加害も教える必要があると政府に訴えるべきである。被害の辛さはもちろんあるが、事件を起こしてしまう側も辛いということ学ぶ必要がある。先生のおっしゃった通り、被害と加害の両者を理解して初めて現実を知ることになるから、学校でも加害面を教えなければならぬ。しかし、加害面を理解する事が大事だと分かっているにも関わらず、今の日本ではあまり教えられていないのはどうしてなのだろうか。</p>	
饗場	<p>どうすれば国民が政治リテラシーを持つようになるかという問題を取り上げるべきである。なぜなら、今の日本は政府が憲法を軽視したり、メディアへ圧力をかけることで報道の自由を後退させたりと、戦後最大の民主主義の危機状況に直面している。この状況を打破するには国民一人一人が政治リテラシーを持ち、政治を他人事と思わないことが必要であるからだ。自分なりの見解としてはまず、選挙の投票率を上げるべきである。選挙は国民が政治にかかわることの出来る手段であるからだ。さらに選挙は18歳以上なら地位や貧富関係なく誰でも参加することが可能である。特に今、若者の投票率が低下している。SNSでの選挙活動を活発にしたり、ネットでの投票を可能にしたりすることで若者が政治に興味をもつチャンスを作るべきである。次に、メディアの情報を鵜呑みしないようにすべきである。メディアの報道内容を信じて安心するのではなく、常に一人一人が政治に対する問題意識を持つことが必要である。</p>	

<p>饗場</p>	<p>日本の選挙における投票率の低下(特に若者)はどうして起こるのかということについて聞きたい。</p> <p>日本の民主主義は危機を迎えており、選挙の低投票率をはじめ、メディアの衰退や強行採決、文書の改竄・隠蔽・捏造などの事態が起こっている。国民自身が国を引っ張っていく人を選ぶことができるため、選挙は民主主義が成り立つ上で重要な手段だと考えることができる。そのような重要な手段があるにもかかわらず、投票率の低下が起こっている原因は、「自分が投票したところで何も変わらない」と思っている人が多いからだ。若者に関しては、政治に興味を持たず、そもそも今の政治がどのようなことをしているのか、どのような問題があるのかということも知らない可能性もある。</p> <p>投票率の低下を止めるためには、選挙や政治に対しての情報などを分かりやすい文章でもっと発信していくことや、政府はより市民の意見を反映した政治を行うことなどが解決策として挙げられる。</p>	
<p>饗場</p>	<p>政治リテラシーの授業で感情的になる映像を写している</p> <p>政治リテラシーを学ぶには感情的な意見に流されてはいけない。という授業をしているにも関わらず、戦争の映像などを流している。こうしたことをすると、このような映像を見慣れていない大半の学生は、感情的な意見として、残酷だから戦争はいけないなどと思うのも無理はない。それなのにレポートでこのような映像について感情的な意見を少しでも書くといけませんというのは、少し難しいことである。だから、戦争の映像を見ることなどは任意にして、まだ私たち学生が知らない事件について話をしたり、その詳細を言葉で伝えるだけ十分である。また、たった2回の授業というだけでは少ないのかもしれないが、民主主義や立憲主義のできた経緯や成り立ちについてもっと説明するべきだ。あまりにも過去の事件のことを強く語りすぎ、伝えすぎるせいで大半の学生は、戦争はこわい、戦争はいけないという結論に終始している。</p>	<p>この授業では、「感情は、個人の行動の動機になるが、客観的に正しいことの根拠にはならない」と説明してきました。学ぶとは、「知り、思い、調べ、考える」というサイクルです。そして、他人に対して意見を主張するときには、感情は根拠にならないので、相手も納得するであろう客観的な根拠を示すべきです。</p> <p>論語で言うところの、「学びて思わざれば則ち罔し(くらし)、思いて学ばざれば則ち殆し(あやうし)」です。(山口)</p>
<p>饗場先生</p>	<p>私は民主主義と立憲主義が危機に陥っている問題について取り上げたい。</p> <p>現在、民主主義は選挙の低投票率、政府の干渉によるメディアの衰退などで危機に陥っている。また立憲主義も安法制で憲法を軽視されるなどの問題が起きている。民主主義と立憲主義が正常に機能することは人権が保証されるためには欠かせないものである。だから民主主義と立憲主義が危機に陥っていることは我々が人間らしく生きるという観点から見ると重要であり解決すべき問題なのである。</p> <p>この問題を解決するために、私たちは政治リテラシーを高めることが必要である。</p> <p>政治リテラシーを高めることで、政治に対する知識や関心・行動力を持ち、自分の思考に最も近い候補者に投票することができる。また市民は国会に対して脆弱だという関係が理解できる。</p> <p>このように政治リテラシーを高めることは、現在日本で起きている民主主義や立憲主義の危機から抜け出す第一歩なのである。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私が提案する問題は、選挙に若者がより興味を持つようになるのかという問題だ。投票権が18歳に引き下げられた今、若者の政治への積極的参加が求められている。しかし、現実には、18,19歳の投票率は50%くらいだ。この投票率をもっと上げる必要がある。半分の人が、政治に興味を持っていないことになる。正直なところ、誰が政治をしてもあまり変わらないと思っている自分がある。おそらく、こう考えている人はほかにもいるはずだ。そういう人たちのためにも、選挙へ参加していくことで、どのようなメリットがあるのかを説明してほしい。</p> <p>選挙に参加することの最大のメリットは、政治に参加できることだ。自分の推し進めたい政策や政党に投票することで、実現される。そして、投票することによって、政治に対しての発言権を持つことができる。最低限のことをしていない人は、批判を言うことはできない。だから、積極的に選挙に参加していくべきだ。</p>	



<p>饗場</p>	<p>民主主義について</p> <p>今多くの国で民主主義がとられている。日本では若者の低投票率やメディアの衰退によって民主主義が危機的な状況にある。民主主義が正しく機能するためには国民の教養が前提とされている。しかし、大学で社会問題を客観視し、多方向から思考することの重要性を教えられた人が正しい答えを出すために選挙に参加しても、教養のない人々が現在のメリットだけを考慮して投票することで正しい答えが選ばれないことがある。例として挙げると、イギリスでは、2016年EUの離脱を巡り国民投票が行われた。投票率は70%を越え、メディアも萎縮することなく、活発であった。しかし、大学卒のいわゆる学がある人は残留派が多かったのに対し、労働者や貧困層は離脱派が多かった。結局イギリスは離脱することになった。</p> <p>今、民主主義は本当に正しく機能しているのか民主主義に代わる他の手法はあるのか是非討論していただきたい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>政治の話や戦争の話を聞いて、現在は平和ではあるが、危機的状況にあるということが改めて分かった。しかしその反面、危機感を感じるものの、自分一人の力ではどうにもならないことが多いのではないかと。例えば、選挙に行くことは私たち国民が主権になる機会につながるのだから必要だ。しかし、自分一人の一票ではどうにもならないのではないだろうか。また、「戦争はだます政府とだまされる国民がいることで起こる」ということが今日の授業で分かった。しかし、だまされる国民がいるのは、戦争という状況の中では、仕方のないことではないだろうか。このように、自分一人の力では、どうにもならないことが多い。だからこそ、自分一人の力でも、今の状況を変えていく方法を学ぶことが必要である。だから私は、「政治や戦争などに関連する問題において、本当に自分一人でもできることはないだろうか。」この問題を取り上げるべきだ。</p>	
<p>饗場先生</p>	<p>今の政権は本当に民主主義が崩れつつあるのか。間違った方向に進んでいる政権は交代させたら良いというが、もし先生が仰っていたように今の日本の政府がおかしくなっているのなら、それに代わる政権はあるのか。代わりうる政権はどのようなことを意識しなければならないのか。</p> <p>私がこの問題提起を考えたのは、先生が間違った政権は主権者によって変えさせるべきだと仰っていたが現在自分達の手で変えることは可能なのか疑問に感じたからだ。前回の選挙でも、自民党の支持率は低くなって反発があったに関わらず、それに代わる存在がいなかった為に自民党が勝ち、さらに(言い方は悪いが)暴走が進んでいる。代わりうる存在があるのか、無い場合どうするべきなのか。それがはっきりしなければ更に、今の政権の悪化が進むのではないかと。以上の理由により、この議題を提起した。</p>	
<p>饗場</p>	<p>現在の日本は戦後最大の危機であり、国民は国家に騙されて戦争が始まるかも知れないが、ひとりひとりが政治リテラシーを持てばそのような危険は無くなると饗場先生はおっしゃっていた。しかし今の日本の教育は、戦争の実態を教えないので、加害の面を知らない若者が増えている。私たちのように、加害の面を教えてくれる人がいればよいが、大多数の学生はそのようなことを詳しく教わらずに大人になって、国家に騙される危険性が高い。国家に騙されないために、一人でも多くの日本人が政治リテラシーを持つにはどうしたらよいのだろうか。饗場先生の言っていた通り、政治リテラシーを持つことは、戦争を防いで、民主主義、立憲主義を守るために最も重要なことである。よって、この問題を扱うことが必要である。日本の数人だけでなく、多くの人が政治リテラシーを持ってこそ意味がある。</p>	
<p>饗場</p>	<p>政治リテラシーとは、政治に関心をもち、知識をつけ、行動することであることを学んだ。この力をつけるために具体的にどうすればよいかを討論してほしい。私は、政治リテラシーを身に付ける前に、多面的に物事を見る力、論理的思考力を身に付けたいと思ふ。なぜなら、政治に関心をもち、テレビや新聞といったメディアや人の話を通して情報を得るとき、どれが真実かを見極めなければいけないからだ。しかし、メディアの衰退が問題の現代では、真実の情報を得ることは困難である。だからこそ、より多面的な見方や論理的思考力が必要である。この力をつけるために、大学の授業で問題提示し、それに対する解決策を見つけ、客観的な理解、根拠を明確にするということを練習することが必要である。これは、論理的思考力、多面的に見る力を身に付けるためにつながる。</p>	

饗場先生	<p>騙されていると知ったとしても、自分 1 人の活動によって何が変わるのかと考えて結局行動に移さない若者が多いのではないか。</p> <p>今回の授業が一番心に残ったのですが、政府は自分たちの思うように国民を操るために嘘をついて騙しているときいたとき、一番にこれが浮かびました。</p> <p>国民全員が操作されるのであれば、たった数人、数百人が抵抗したところで結局は押し込まれてしまうはずで。</p> <p>実際、投票者数が減っているとはいえ結局は多数派の意見が尊重されるわけで、一票からなにが変わるのか?と若者は思っています。そのため、どう政治のことを考えたとしてもいように転ぶと思ひ込み、最終的に投票に行かないことにつながります。自分自身に直接影響がなさそうにみえることも投票数低下の一因です。それゆえに騙された側の意見が集中してしまうのではないのでしょうか。</p>	
饗場	<p>戦争を避けるためには、民主主義、立憲主義の堅持が重要である。しかし、饗場先生の第一回目の講義で、民主主義の危機について述べていた。特に若者の低投票率が問題である。私は高校の時に初めて衆議院選挙に参加したが、その時の低投票率には驚いた。選挙の参加年齢が 18 歳に引き下げられたが、そうすることで有権者が増えるし、さらに若い人の意見を政治に反映することができるはずである。どのようにして積極的に投票に参加するように促すかを考えなければならない。いくら民主主義が大事だと言っても国民が一人一票を投票しに行こうとしない限り国民の意見は政治には反映されないし、国民が選挙に行かないのであれば政治に対して何も文句は言えない。このままではいつ戦争が起こってもおかしくない状況である。どのようにして投票率を上げるのかを考えるべきだ。</p>	
饗場	<p>政治リテラシーを持つことが本当に現代の日本の危機を救うことにつながるのであろうか。この問題を取り上げる理由は現在の日本では民主主義と立憲主義が危機的状況であり、自分たちがその危機を打破するためにしなければならないことを考える必要があるからだ。それに関する自身の考えは確かに政治リテラシーを持つことは大事だが、必ずしもそれをもっているからといって今の危機を打破できるとはかぎらないのではないかということだ。なぜなら、実際に今の政治に反対して行動を起こしている人もいるのに現状はかわっていないからだ。過去に関していえば、例えば安保闘争などがあげられる。多くの人たちが行動を起こしたにもかかわらず、結局は強行採決でおわった。現在でも反対の声を上げている人も見受けられるが、それでも民主主義や立憲主義が危機に陥っている。</p>	
饗場	<p>最近、若者は政治の関心がないとよく言われる。実際について最近の講義までは政治についてあまり関心がなかったし、若者の選挙率の低さから政治への関心の低さが目に見て分かる。</p> <p>しかし、政治の状況を伝えるメディアは同じ事ばかり取り上げたり、謝った報道など機能していない。この様子では政治に関心を持ちにくく、距離を置いてしまう。もちろん若者は政治に感心を持つべきだが、若者だけが一概に悪いわけではないと感じる。なぜここまで若者がそこまで言われてしまうのだろうか。</p> <p>必要だと感じた理由は、若者と、それより上の世代の意識のずれを理解する必要があると考えたからだ。特に、若者が政治に関心を持っていないのにも少なからず理由がある事を知ってほしい。このずれを認識することで、多くの人により政治リテラシーを高める可能性が増える。</p>	
饗場	<p>饗場先生の講義は、2 週連続で政治リテラシーについての講義だった。政治には興味はあったが、深く考えたことがなかった私は饗場先生の講義は刺激的なものだった。講義を受けていて私の考えとは違う部分もあった。例えば対馬丸事件でのポエムである。先生は、「なぜ」の答えは「民主主義が崩壊したから」という答えを提示していたが、そもそも当時は民主主義という概念は崩壊する以前に機能していなかったはずである。民本主義という考え方はあっても、民主主義は戦後世の中に普及されたため、「崩壊した」という考え方は誤っている。</p> <p>このように普段考えないようなことを考えさせられるデリカシーな問題を、饗場先生をはじめ他の先生方の考えを知ること、より政治リテラシーを身につけることに繋がるため、この問題を扱うことは必要である。</p>	

<p>饗場</p>	<p>戦争を経験していない人々で構成される今後の日本は、どうやって過去の戦争を語り続けていくべきなのか、どうやって平和を守り続けるべきなのか、このことを私は問題提起する。</p> <p>第二次世界大戦が終結してから 70 年以上たち、戦時中を生きた人々の年齢も非常に高齢となり、今も元気に生きている人数はかなり減ってきた。今後さらに年月が経つにつれて、ますます戦争経験者の数は減っていき、もちろん、いずれ戦争を経験した人が 0 人となる日も必ずやってくる。そんな中、今の日本は、政府が嘘をつく、メディアが真実をありのままのことを人々に伝えられない、国民の低投票率などなど、様々な問題がある。</p> <p>今の日本の現状のままでは、戦争経験者がいなくなるとさらに平和意識が少しずつ薄れる恐れがある。よって、初めに挙げたことを提起したい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>強行採決による危機について取りあげてほしい。饗場先生の講義では、自分たちが平和に暮らしていくために政治リテラシーを持ち、高めることがいかに重要かどうかという内容だった。日本は今ゆでガエルの危機に陥ろうとしており、講義ではそのゆでガエルの危機について、低投票率、メディアの衰退、権力の私物化、強行採決、知る権利を奪う特定秘密保護法などの具体例が挙げられていた。その中でも特に強行採決については若い世代にとってしっくりこない問題だろう。メディアで報道されていても、なぜ危険なのかについて知らなければその問題について意識が向かない。つまり、意識が向かない問題ほど、気づかないうちに国家の権力が暴走しているという事態に陥りかねないので、なぜ強行採決が危険なのかということについて取りあげてほしい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>憲法を改正する必要があるのか。私たちの生活は憲法の下成り立っている。最近、安倍内閣が憲法第 9 条を改正する案を出した。憲法を改正することが、日本の自衛の手段を広げ、戦争をふっかけられた時に役に立つからだ。しかし、憲法改正が自衛隊の権限を拡大し、日本を戦争に導くという意見もある。私は憲法改正には反対です。確かに、自衛隊の範囲を広げることは完璧に国を守るために必要だ。しかし、憲法を改正することがまず憲法が軽視されているといえる。憲法は国家権力の檻だ。憲法を改正することが独裁への一步となってしまうかもしれない。改正した時は厳しい目があるが、時が経つにつれその厳しさは風化していくだろう。憲法改正ができることにより、自由になった国家は強大だ。国家を縛り付ける意味で、憲法改正はしてはいけない。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私たち市民が政治リテラシーを持たなければ、最悪、国家や政府が私利私欲を満たすための道具として利用し、暴走するようになる。それゆえに、市民は政治リテラシーを持ち、積極的に政治に参加することが「茹でガエルの危機」を脱し、国家や政府に私たち市民が奴隷のような扱いを受け、利用されることなく、人間が人間らしく生きる世の中を作り出す契機になる、ということを饗場先生の講義の中で私は学んだ。</p> <p>しかし、逆に市民が暴走してしまうことはないだろうか。そうなれば国の政治は機能しなくなり、国は混乱に陥り、崩壊の一途を辿るのではないか。</p> <p>だから、饗場先生の講義で国家や政府イコール悪という印象を受けたが、正義になることはないのだろうか、ということを知りたい。</p>	
<p>饗場</p>	<p>饗場先生の授業で、政治リテラシーを持ち、悪い政府は民主主義による選挙で政権交代させ、国家権力が濫用されるのを防ぐためには政府の行動を憲法により縛らなければならないということを学んだ。そして最近、成人年齢を 20 歳から 18 歳に引き下げるのが決定したというニュースを見た。これは憲法では無く民法が改正されたものであるが、成人年齢の引き下げは正しい選択だったのでしょうか。私は、成人年齢の引き下げに賛成である。成人年齢の引き下げの 1 番のメリットは、少年法の適用から外れることだ。18 歳という年齢になれば、やって良い事と悪い事との区別をつけることは可能である。したがって、人は 18 歳になって罪を犯せば、実名報道され社会的制裁を受けるべきだ。</p>	
<p>饗場</p>	<p>私は次回のパネルディスカッションで、現在の日本の政治について取り上げるべきだと考える。4/13、20、27、5/18 の講義では、自分の主張だけではなく、反対意見も取り上げることを学んだ。しかし、5/15 の講義では政府、与党への批判は多く挙げられていたが、野党の情報はあまり挙がっていなかった。確かに、現在の政府は憲法改正、森友・加計問題など多くの問題がある。しかし、野党にも先日のいわゆる「18 連休」など問題もある。強行採決も問題だが、そもそも議会に出席しなければ審議は行えない。ゆえに、今回の講義では詳しく語られなかった反対意見も含めた、政府、与党、野党それぞれの考えや言動に</p>	

	ついて、左右どちらにも傾いていない議論を行うべきだ。	
饗場	私はこの総合科学入門講座を通して特に情報リテラシーについての授業が印象に残っている。私たちが賢い市民であることの大切さや国家権力民主主義と立憲主義を守っていくべきだということを学んだ。しかし民主主義を成り立たせる上で最も重要だと考えられる選挙に関して、特に若者の選挙率の低さをパネルディスカッションの議題として提起したい。選挙の参加年齢が18歳に引き下げられたものの、選挙率の低さが目立っている。この状況が改善されなければ民主主義そのものが崩壊してしまうだろう。そのためには情報リテラシーを上げていくことが必要であるが、現代の若者にできる現実的な行動とは何だろうか。このことについて是非ディスカッションをしてほしい。	
饗場	現在の日本の民主主義について。政府が悪い方向に向かっていたら政府を変えればよいと述べられていたが、現状の政府は講義中にも示唆されていたように強行採決や文書の改竄などが目立つにもかかわらず政権は長年変わらないでいるので、これは問題なのではないか。確かに独裁政治や一党しかない国に比べれば日本は政府を変える余地がある。しかしながら、現在の各党のあり方を見れば若者は、政治に関心を持つだけ無駄だと悪い政府を変えることを諦めてしまうだろう。そうならないためにも、ただ選挙に行きましょう、と言うのではなく、若い世代のどのような人々も政治に関心をもって民主主義に参加するためには具体的にどうするのが効果的なのかをさらに示していただきたい。	
饗場	どのように政治家に騙されないようにしていかなければならないのか。戦争をおこさないようにするために政治リテラシーをもち、民主主義の考え方をしていかなければならないが、若者が政治的無関心になってきている中どのようにして自分たちが民主主義の世の中をつくっていけばいいのか。この問題を扱うことにより自分たちが政治にかかわるきっかけをつくっていくかもしれないし、政治にかかわることの必要性を感じるから。私は、政治家の意見を聞いて自分の考えをまず持つことが大事であると考え。なぜなら、若者は投票率が下がってきているなどの政治に関心を持っていないからまずは、政治家などの意見を聞いてみることから始めなければならないと考えるから。	
饗場	前々回の講義で、政治には価値の配分とそれを市民に強制するための国家権力、その国家権力の濫用を防ぐために市民が国家の行動を縛る民主主義や立件主義などの力、そして市民が適切に判断するための情報を提供するマスメディアといった要素が必要であると教わった。しかし現在、国会では強行採決が横行したり、資料の捏造、改竄、隠蔽が行われたりもしている。また市民の間でも投票率の低下などの問題もある。マスメディアも政府による抑圧や懐柔、メディア自体の萎縮もあり、市民に適切な情報が十分に与えられていないという現状もある。このようなことから国家、市民、メディアのどこから変えていくのが一番有効なのか。	
饗場先生	メディアの衰退を招く原因はなんなのか。 政治に何らかの形で参加することを前提に、良くも悪くも私達を扇動するのは、テレビ、新聞、書籍、あるいは情報の発信源となる人などのメディアと呼ばれるものである。そして、メディアのもう一つの役割は、政治の監視である。 もし、メディアが衰退し続ければ、メディアの自由が保障されなければ、日本は民主主義の機能を失う。なぜなら、メディアでの民衆の扇動が可能になり、都合のいい情報だけが報道されるようになってしまうからである。そこで、報道の自由度が下がったといわれている今、その原因を突き止め、メディアの抑止力としての地位を取り戻す必要がある。	
饗場	私が扱ってほしい問題は学生としての政治との向き合い方についてのものである。選挙権が18才になり、投票する人間の数が増えたにもかかわらず若者の投票率は低下していたり、私も含め政治に無関心な若者が増えていたりする。そしてそれは政治に参加する権利を与えられたが、その権利をどのように行使していかうまく理解できていない、さらには理解できないままだうして良いか分からずその権利を捨ててしまうことによって引き起こされるのではないだろうか。そこで今回の授業では、学生が政治そのものや選挙権などの政治に関係する権利とどのようにして向き合っていけば良いかを取り上げていただきたい。	

饗場先生	<p>饗場先生の講義で、現在の日本は危機に瀕しているといった点でメディアが政府の制限をうけている。という問題についてもっと深く扱って欲しい。あの講義では中心の話題ではなかったが、現在の日本のことであり、これからの日本を生きていく世代としてしるべきである。また、国民が一番情報を知る手段がメディアであるし、そのメディアが制限を受けているのはまさに危機である。私は、政府がメディアに制限をかけている理由として、前回の授業で言われていたように国家権力が暴れそうになっていることが挙げられる。</p> <p>このように、現代の日本におけるメディアの危機の問題について扱うべきである。</p>	
饗場先生	<p>もし政府が民主主義を放棄しようとし、市民をだまそうとしていることに気付いたとき、私たちは何をすればいいのだろうか。私たちにできることの一つに選挙に参加することが挙げられるが、本当にそれだけで十分なのだろうか。</p> <p>いや、それだけでは不十分である。第一、民主主義が崩壊してしまえば今の選挙制度がなくなる可能性もある。そのため選挙以外の方法として、デモンストレーションを挙げる。しかし、これには法的な威力はなく、効果は期待できそうにない。</p> <p>授業で理解した、いかに現在政治リテラシーが必要になっているか、を適切な形で生かすために、この問題を提起したい。</p>	
饗場	<p>私がパネルディスカッションのテーマを決めるとすれば、饗場先生の授業で学んだ「政治リテラシーを考えよう」から、必要な四点の中の「市民が政府に騙されない賢明さを持ち、民主主義と立憲主義を堅持せよ」に着目し、以前新しく民法が改正された「18歳成人」についての内容を選ぶ。理由としては、前々から話題になっていたわけでもなく、急に改正され、私たち国民が承認するという過程もなく決まったからだ。政府に騙されないという観点から、「民法だから仕方ない」、すべてが「仕方ない」で終わらないようにするためにも、この話題については深く多くの人と話し合っ改善していく必要がある。</p>	
饗場	<p>饗場先生の授業で無能、邪悪な人に権力を濫用されないために、また政府に騙されない賢明な市民になるために「政治に対する関心を持ち、知識を得て行動する能力」である政治リテラシーが必要だとわかった。私たちの永久の平和のためには政治リテラシーは必要不可欠だと私たち国民は知っているはずなのに私たち国民の政治への関心が年々なくなってきている。なぜ国民の政治への関心がなくなってきているのか。そしてそこにはどのような国民の心情の変化、国民の生活の変化、政府の変化、世界の変化があったのか。</p> <p>加えて、我々国民の多くが政治への関心を持つにはどうしたらいいのか。</p>	
饗場	<p>前回と今回の講義で、今の国民は、民主主義・立法主義の危機に対して、実感がわかず、ゆでガエルの状態にあるということ学んだ。また、饗場先生は、政治リテラシーがあれば、鍋から飛び出す、つまり、その危機から脱することができると言っていた。しかし、政治リテラシーを持つだけで解決することなのだろうか。政治リテラシーを持つ人は、今の日本にもたくさんいる。にもかかわらず、この問題が未だ解決されていないのは、政治リテラシーを持っていても、実行に移す人が少ないからである。よって、政治リテラシーを持つだけでなく、根本的に国民の意識改革を行う必要がある。</p>	
饗場	<p>日本では政治的な話題がタブーとされる傾向がある問題について、その傾向を払拭するにはどうすればよいか。</p> <p>理由は、海外では大学生や高校生でも友達と普通に政治について議論をするそうだが、日本ではあまりそういった話はしないため、日本では政治的関心が低く、低投票率に繋がっているのではないかと思ったから。政治の話避ける理由の一つには、意見の押しつけあいになって人間関係が悪くなりそうだからというのがあるが、きちんと議論の方法を身につけることができているならば、悪くはならないはずである。議論する姿勢を身につけるべきである。</p>	
饗場	<p>授業で為政者が欺瞞性を持っており、市民が騙されるために戦争が起こる。そんな政府を交代させるために民主主義や立憲主義という仕組みがあるが、現代の日本ではその仕組みが機能なくなっている。そして私たち市民は欺瞞性を持つ為政者に騙されないために政治リテラシーを身につける必要があると学んだ。しかし、政治リテラシーは身につけているだけでは意味がないのではないだろうか。私たちのような権力も影響力も持たない大学生が何をすれば、政治リテラシーを正しく運用、拡大していくことができるのかについて議論していただきたい。</p>	

饗場	<p>饗場先生は最後の2回において政治や民主主義について講義していただきましたが、私個人としては饗場先生に国際政治学入門の講義も受けているので、ほとんど内容が同じで正直あまり興味が湧きませんでした。同じ内容を学習しているとしても、やはり総合科学部の人に伝えたい内容であったのはもちろん理解しているのですが、もう少し違う観点から、その内容を伝えてみるという方法はなかったのでしょうか。同じ内容であっても再度学べることはあったが、少なからず私と同じことを思っている人はいると思うので、そこは配慮して欲しかった。</p>	
饗場	<p>私が問題提起をしたいのは、憲法の改正ができるということは民主主義を妨げるのではないのかということです。</p> <p>憲法は国家の暴走を未然に防ぐ効果を持ちます。しかし、憲法を改正してしまえば国家が暴走するかもしれません。確かに憲法は時代に対応するために変更できるほうがいいのかもありません。しかし、改正の結果、国家を規制するどころか国家が独裁にはしるようになっては民主主義は守れません。したがって、憲法は改正できないほうがいいのです。憲法改正について言い争わなくてよくなります。</p>	
饗場	<p>今の日本の政治では法律案を強行可決することが多いが、このまま強行可決を続けさせて良いのかという問題を考える必要がある。最近若者の政治に対する関心がなくなってきている。今回この話を取り上げることで、今の日本がどのような政治を行っていて本当に今行われている状態を続けてよいのかどうか考える機会になる。この機会を作るか作らないかで、今の日本の政治について正しいかどうか若者が考える可能性が少しかは変わるだろう。</p> <p>以上のことから、この問題について話し合うべきだ。</p>	
饗場	<p>選挙投票率を上げるにはどうすれば良いかという問題</p> <p>饗場先生の講義で「悪い政府は変える」ということが市民・国民のできることだと学んだ。政府を変えるためには選挙が1番簡単で有効的だと思うが、選挙投票率は低迷している。このままでは政府や政府機関がより腐敗し、政権の濫用が続いてしまう。どういう呼びかけをすれば投票率は上がるのか、また学生である私たちは投票率を上げるために何をすれば良いのかという問題を扱って欲しい。</p>	
饗場	<p>「この世界の片隅に」の主人公のすずの評価について問題にしたい。饗場先生のおっしゃった通り、自然災害と戦争を一緒にする考えがこれからの世代に伝わっていくことは、戦争という起こってはならなかった事実を正しく理解することの妨げになるので、この問題を扱うことは必要だと思った。すずの健気に頑張っている姿に感動するのは今の若い世代の人の態度である。この態度を変えていかなければ、日本の平和な未来はないと思う。</p>	
饗場	<p>以前の講義で私たち市民ができることは選挙によって悪い政府を交代させることだと言っていたが、それだけでは解決できないような問題はどうか。例えば、安倍総理が集団的自衛権をできると主張したことについては、各地で集団的自衛権反対のデモなどが起こったが変更されることはなかった。このような問題に対して私たち市民ができることはあるのだろうか。それについて知りたい。</p>	
饗場	<p>私は現政権下で行われた憲法解釈の問題について取り扱って頂きたい。講義で教わった憲法の権力を抑える働きも憲法の解釈が異なれば機能しなくなる。そういった中で本当に憲法に権力に対する抑制力があるのかどうかについてパネルディスカッションを行って頂きたい。またどうすれば政権ごとに異なる憲法解釈を止めることができるのかについてもご意見を伺いたい。</p>	
饗場	<p>民主主義と立憲主義の仕組みが壊れつつある日本。どうして森友・加計問題などの公文書改ざんが次々と明らかになる現在の与党が選挙で負けないのか。</p> <p>国民の「どうせ政治なんか誰がやっても一緒だろう」といった諦めや「ほかの党よりはまし」といった妥協が理由として考えられるが、他にも要因はあるのか。それをディスカッションしてほしい。</p>	
饗場	<p>私たち大学生は選挙権も持ち、これからの日本がどうなれば良いのか真剣に考える必要がある。饗場先生の講義を受けて、国家が持ちうる力の大きさを感じた。現代の日本、また日本がこれから世界とどう関わっていくのか、どう関わるべきなのか、その為は何が良くて何が悪いかといった問題を扱ってほしい。</p>	

藍場	戦争を無くすためには何が必要か。他の授業で、「ホテルルワンダ」という映画を見たが、民族同士の紛争の原因は簡単にはなくならないんだなということを実感した。今でも紛争の続いている地域があり、早く解決をしないとその分犠牲者も増えるので、戦争を無くすために必要なことを話し合っしてほしい。	
饗場	戦争を避けるためにということについて授業で学びましたが、戦争ではなく虐殺だったら避ける方法は具体的にあるのですか?総合科学入門講座とは別の授業でルワンダの虐殺についての映画を観たので疑問に思いました。自分は、虐殺が起こっている場所を避けることしかできないのかなと考えます。	
饗場	若者の政治への関心の低さ、投票率の低さについて 最も今の自分たちに必要なことだと思うから。都会の投票率はもちろん、徳島などの地方の投票率が全国的に低い傾向にあり、このままでは地方の若者の意見は政治に反映されない可能性があるから。	
山口、饗場	私は民主主義について議論してほしい。饗場先生の授業や、山口先生の哲学の授業を含め、民主主義についてたくさんのことを学んだ。意思決定は多数決であるが、多数派の意思が正しいとは限らないこと。また、徹底した政策を行うことは難しいが、政治の責任が民意にあるので国民にとって一番理想的である。そのようなことを私は学んできた。しかし、国民に決定権があるのに、多くの国民はその自覚がない。政治状況が悪くても自分のせいだと思わないだろう。そうすると、具体的に政治リテラシーを持つこととはどのようなことなのだろうか。国民にとって薄れてしまった政治意識を取り戻すためには?その具体的な方法についての議論を見てみたい。	まずは山口裕之『人をつなぐ対話の技術』(日本実業出版)を読んでください。生協で売っています。次に、そこで紹介している参考文献を読んでください。そうすることで、民主主義についての様々な問題点や切り口が得られるはずです。(山口)
荒武、饗場	この先の東アジア情勢について この先数年間の日本、ひいては世界情勢に大きく影響してくるであろう問題であり、私たち日本人にとっても生命に関わる重要な問題であるから。 友好姿勢を示しているがその真意は不確かな北朝鮮、国家主席の任期を延長し、確実に国力、及び軍事力を増強している中国と、こちらも大統領に再選し独裁体制を強め、東アジアに対して影響力を伸ばそうとしているロシア、そして世界最大の軍事力を保有するアメリカ。世界中にかつての戦争の残滓が残り、燻り、それがまた戦後の世界に波紋を呼んでいる。東アジアにおいてもその残滓が、例えば朝鮮戦争が未だ完全な平和状態でないことや第二次大戦における戦勝国が近接して互いのパワーバランスを見計らっていることから伺える。これまでの歴史から見ても、強力な国家同士は最終的にその覇を競い合い、一方の国が破れ、またもう一方の国が新時代の覇者となってきた。決してこの先戦争状態に突入する可能性が No とは言えないが、しかし多くの知識人が頭を悩ませるようほど複雑になりつつある東アジア情勢には、日本人として日和見のスタンスでいるべきでは決していない。 この先日本はどうなるのか、どうするべきなのか、先生方がこの問題について様々な資料から、また外交、経済、歴史など様々な見地から議論すれば恐らく一色ではない答えが生まれるだろうと思ひ提言する。	